

越後屋（本店一巻）店々奉公人数

西 坂 靖

近世都市における大店については、限られた空間に多数の奉公人（若年の男子単身者）が集住していることを、その特色としてあげることができる。⁽¹⁾三井越後屋などは、その代表的な例であると言えよう。

三井越後屋の各店舗の奉公人数については、すでに部分的・選択的にあきらかにされているが、⁽²⁾各年のそれについて網羅的に紹介する作業は未だなされていない。三井越後屋の奉公人研究を進める上において、その人数をあきらかにすることは重要な基礎作業であると考えられるので、ここに越後屋（本店一巻）の各店舗の各年（春季・秋季）の奉公人数のデータを紹介することにしたい。

周知のごとく、近世における三井の事業は、呉服業と両替・金融業の二本建てであり、前者を営む店々が「本店一巻」、後

者の店々が「両替店一巻」というグループを形成した。本店一巻に属する店舗は、一七三〇年代以降について見れば、京本店、江戸本店、大坂本店、江戸向店、江戸本町一丁目店（のち芝口店）、京上之店、江戸糸見世、京紅店、京勘定場の店々であり、開港後に横浜店が加わった。

本店一巻の各店舗は、半年（春季・秋季）ごとに、本店一巻の本店格である京本店に、諸々の目録（決算帳簿）を提出するが、その中に一つの賄方（台所入用）系統の目録がある。⁽³⁾この目録は、各店舗の住み込み奉公人の生活を賄うため支出した諸費用を計上したものであったが、その末尾においては、一日一人あたり幾らの費用が掛かったかが算出される。そのため賄方系統の目録には、店の側が生活の面倒をみる奉公人の人数記載

があるのが通例である。本稿では、このような賄方系統の数值をもとに各店舗の奉公人の量的規模について検討していきたい。

賄方系統の目録が継続的に残っているのは文政元年（一八一八）以降に限られるため、ここでは、京本店作成・所蔵の「本店一巻目録改帳⁵」と「目録吟味寄⁶」を主たる史料として用いる。これらは、本店一巻の各店舗から、京本店に提出された諸々の目録（決算帳簿）を摘記し、表としてまとめたものであり、その中に賄方の経費および奉公人数も含まれている。「本店一巻目録改帳」および「目録吟味寄」に記載された奉公人数は、いずれも賄方系統の目録を典拠にするものであり、したがって両者の数值は同一のものになる。

まず、享保一五年（一七三〇）以降、継続的に各店舗ごとの奉公人数の総数をあきらかにすることのできる史料として、「本店一巻目録改帳」が注目される。この史料からは、①京本店、②江戸本店、③大坂本店、④江戸向店、⑤江戸本町一丁目店（のち芝口店）、⑥京上之店の各店舗について、享保一五年（一七三〇）以後、明治初年にかけて、毎年の春季・秋季ごとの奉公人の「惣人数」がほぼ欠年なく継続的に明らかにできる。しかしながら、この史料には「惣人数」の内訳については記載がない。

したがって次に、奉公人の「惣人数」の内訳を知ることが問題になるが、「目録吟味寄」からそれが可能になる。「目録吟味

寄」は享保一四年（一九二九）から始まるが、享保一八年（一七三三）以降は、右に記した①から⑥までの各店舗の奉公人の構成・内訳についての記載が見られる。ただし記載の欠ける節季も少なくなく、網羅的にあきらかにできるとは言えないのが難点である。また「目録吟味寄」からは、これらの店舗の他、江戸糸見世、横浜店、京紅店、京勘定場についても、時期が限定されるが、奉公人数を知ることができる。

「目録吟味寄」からあきらかになる各店舗の奉公人の構成・内訳は、a手代、b子供、c下男、dその他である。a、b、cは各店舗に共通するが、dは、通勤・定詰などで各店舗により異なるところがある（この点については後述）。

以下「本店一巻目録改帳」および「目録吟味寄」からあきらかにされる各店舗の奉公人数について、簡単に説明を付しておきたい。

1 京本店

京本店は、江戸、大坂で販売する呉服物の仕入れを行なうとともに、本店一巻の本店格として全体の資金や人事の統轄を行なった。延宝元年（一六七三）に、京都室町通蛸薬師町に開店宝永元年（一七〇四）に北隣の冷泉町西側に移転した。店名前は越後屋八郎右衛門。

第1表は、京本店の奉公人数を表したものである。正徳三年

（一七二三）秋季の「惣人数」は京本店の「小遣目録」⁸から、享保一四年（一七二九）のそれは「京本店目録吟味寄」からとった。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」は「本店」巻目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「京本店目録吟味寄」「店々惣目録吟味寄」からとり、京本店の「小遣方目録」⁹によって補訂した。第1表をグラフ化したのが第1図のうち京本店部分である。

開店当初の奉公人数 第1表（および第1図）以前の京本店の奉公人数について知れるところをあげておく。開店（延宝元年）当初の奉公人については「商売記」¹⁰に「其節の手代練物や利兵衛弟吉右衛門・撰糸買善右衛門・市郎右衛門、年十七八にて染物や使、其外手代彦人・子供三人・男彦人」という記述があるが、これは手代四人・子供二人・下男一人の計七人と解釈できる。およそ三〇年後、宝永四年（一七〇四）の「家内諸事申渡判形帳」¹¹には手代・子供とみなされるもの九二人、下男九人の合計一〇一人の名が記されている。この時点ですでに「本店」と呼ぶのにふさわしい人的規模となっている。一七世紀末の短期間での越後屋の急成長は、奉公人数の上にも直接的に反映していると言えよう。

惣人数の変遷 「本店目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第1図によって見れば、京本店のそれは、江戸本店・大坂本店と比べて増減の幅が少ない。最大値は、安永二年（一七七

三）春季の一七五人である。一九世紀前半は一二〇〜一四〇人台で推移するが、幕末に至り減少を見る。これは、越後屋の他の店舗と共通するもので業績悪化のあらわれである。明治三年（一八七〇）の大幅な減少は店制改革による店舗規模縮小の結果である。¹²

奉公人の構成 次に、この「惣人数」の数字の中身について検討したい。京本店の奉公人の構成は、「目録吟味寄」によれば、当初は「手代」「子供」「裁師」「下男」からなる。手代は一人前の店員として、店表において営業活動に従事する者たちである。子供は、手代の補助的業務に従事する者で、元服を済ませると手代になる。裁師とは、裁物方に属する職人であろうか。ただし文政四年（一八二一）秋季を最後にあらわれなくなる。下男は、台所において手代・子供など店表の奉公人のための炊事など雑用を一手に引き受ける者たちである。¹³

ここで問題になるのは、手代についてである。越後屋の手代は多様な職階に位置付けられており、手代内部でも職階をもとにしたいくつかの区分がある。その一つは、〈名目役〉と〈平〉手代の区分である。〈名目役〉とは上座役以上をさし、それ以下がいわゆる〈平〉手代である。二つめは、〈宿持〉（通勤）と〈住み込み〉の区分である。〈宿持〉の手代は、他所に住居を構え、そこから店へ通勤してくるもので、職階で言えば、通勤支配役以上のものがこれにあたる。それ以下の手代が〈住み込

み)、すなわち店に住み込んで働く者たちである。(左図参照)

宿 持	名 目 役 手 代	大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
	平 手 代	大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初
		大元	元	加	元	勤	名	後	通	支	組	上	筆	相	三	二	初

それでは「目録吟味寄」にあらわれる手代は、どの範囲の手代であろうか。「目録吟味寄」の典拠である、京本店の「小遣方目録」を見れば、例えば文政元年(二八一八)春季¹⁴には、人数内訳の項目に「手代七拾人」とあり(第1表の数値と一致)、また別に「手代六拾老人 小遣高」という支出の記載がある。

これから七〇人の「手代」が①「小遣」を支給される六一人(「小遣」は役頭以下の者に支給される¹⁵)と、②その他の九人からなることがわかる。九人については同季の京本店「目録」¹⁶には、「京本店支配役三人・組頭六人役料」という支出の記載があり、支配役・組頭役の九人であるとして間違いない。以上から、「目録吟味寄」にあらわれる「手代」は、①「小遣」を得ている役頭以下の手代の人数に、②「役料」を得ている支配

役・組頭の人数を加えたもの、すなわち支配役以下の住み込みの手代の人数であることがわかる。

手代以外の子供・下男はすべて住み込みであるから、「本店一巻目録改帳」「目録吟味寄」にあらわれる奉公人数は住み込みの奉公人数であるといえる。したがって、特記されない限り、通勤支配役以上の手代が含まれていないことになる(この点はこの店舗においても同様と考えられる)。奉公人全体の人数をあきらかにするためには、通勤支配役以上の宿持手代の人数があきらかにされなければならない。第12表は、京本店の名目役手代数をあらわしたものであるが、この表の通勤支配以上が宿持手代であり、「本店一巻目録改帳」「目録吟味寄」に計上されていない部分である。

ちなみに「目録吟味寄」にあらわれる京本店の奉公人の構成には、嘉永三年(二八五〇)春季から「手代」(住み込み)とは別に「通勤」(宿持手代)の人数が記載されるという変更がみられる。「本店一巻目録改帳」の「惣人数」の方も、これ以降「通勤」を含めての奉公人数になる。¹⁷

2 江戸本店

三井の江戸店は、延宝元年(一六七三)に、三井高利が江戸本町一丁目に開いた呉服小売店に始まる。同四年本町二丁目店を新設。天和三年(一六八三)に本町一丁目店を駿河町南側に

移転、翌年本町二丁目店を合併した。その後元禄一一年（一六九八）年に同町北側に移り、近世を通じての江戸本店の位置を確定した。¹⁹店名前は越後屋八郎右衛門。

第2表は、江戸本店の奉公人数を表したものである。宝永七年（一七二〇）から享保元年（一七二六）までの数値は江戸本店の「小遣目録」²⁰に拠り、享保一四年（一七二九）の「惣人数」は「江戸本店目録吟味寄」からとった。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」は「本店一卷目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「江戸本店目録吟味寄」「店々惣目録吟味寄」からとり、江戸本店の「小遣目録」²¹によって補訂した。第2表をグラフ化したのが第1図のうち江戸本店部分である。

開店当初の奉公人数 第2表（第1図）以前の時期の江戸本店の奉公人数について知れるところを挙げよう。

開店当初、延宝元年（一六七三）八月の江戸本町一丁目店²²には一五人の奉公人が花押を据えている。「商売記」²³には、開店時の奉公人として、既に抱えていた伊勢徳右衛門・南都利右衛門に加え、「其節抱候手代四五人・子供武人・裏店男一兩人、当分又浄貞方壱丁目店より九兵衛と申手代壱人雇申候」と記されており、計一〇〇〜一二人であったことになる。三井高利（宗寿）の手控「宗寿覚帳」²⁴には延宝五年（一六七七）正月の、一丁目店の奉公人数として手代一五人、子供四人、男（下男）

二人の合計二一人、二丁目店の奉公人数として、手代・子供とみなせるもの一一人、男（下男）二人の合計一三人の名前が挙げられている。

駿河町移転後については、三井高好（宗感、高利六男）の残した記録「宗感覚帳」²⁵のうちに、元禄三年（一六九〇）四月「本店人数立定」として、手代四四人、子供二五人、裏店（下男）一三人、合計八一人が記されている。開業後わずか一七年にして「大店」と化していることがわかる。

惣人数の変遷 「本店目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第1図によって見れば、江戸本店は、越後屋の店舗のうちで人数的には最大の規模を保つたことがわかる。また特に一八世紀中頃の人数増加の勢いはめざましい。「惣人数」最大値は明和五年（一七六八）春季の三四二人である。ちなみに売上高のピークは延享二年（一七四五）に記録する。²⁶人数は文化年間に減少をみたあと、天保八年（一八三七）には三〇〇人台を回復するが、その後減少を続ける。これは営業成績の悪化による利益金の減少と、幕末期の物価高騰により、奉公人組織の維持が困難になり、店舗規模の縮小を余儀なくされたものである。²⁷明治元年（一八六八）秋季から、同二年春季にかけての激増は、店制改革により向店を吸収、同店の奉公人を引き取ったことによる。²⁸

奉公人の構成 「目録吟味寄」によれば、江戸本店の奉公人

の構成は、当初は「手代」「子供」「下男（台所）」からなり、寛保元年（一七四一）春季以降「定詰」が含まれるようになる。定詰については未検討²⁰。手代には通勤（第13表の通勤支配役以上の者）は含まれていないと考えられる。

また京本店・大坂本店と比べて下男の数が多さが特徴的であると言えるが、「目録吟味寄」の典拠となる江戸本店「小遣目録」（文政元年以降の分が残されている）によれば、天保九年（一八三八）秋季まで、台所（下男）人数のうちに、道寿屋敷にあった中店の人数（一六〇一人）が含まれているという注記がある。第2表における、天保九年秋季から同一〇年春季にかけての下男の人数の減少は、天保一〇年春季より、中店人数を含めなくなったことによる²²。

3 大坂本店

大坂本店は、呉服の小売店である。元禄四年（一六九一）に大坂高麗橋一丁目南側に開店した²³。店名前は越後屋八郎右衛門。

第3表は、大坂本店の奉公人数を表したものである。宝永七年（一七一〇）から正徳三年（一七一三）までの数値は大坂本店の賄方系統の目録に拠り、享保一四年（一七二九）の「惣人数」は「大坂本店目録吟味寄」からとった。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」は「本店一巻目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「大坂本店目録吟味寄」

「店々惣目録吟味寄」からとり、大坂本店「雑用方目録²⁵」によって補訂した。第3表のデータをグラフ化したのが、第1図のうちの大坂本店部分である。

惣人数の変遷 「本店目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第1図によって見れば、最大値は安永九年（一七八〇）春季の二四八人である。また大坂本店は江戸本店につぐ規模であることがわかる。

第3表の「惣人数」および第1図については注意しなければならぬことがある。それは「目録吟味寄」の内訳と対照してみるとわかることであるが、①延享三年（一七四六）春季から秋季を境とする大幅な増加（二三四人→一五九人）がこれ以後「朝夕」の者を「惣人数」に計上することになったことに因ること、②天明六〇七年（一七八六〇八七）の落ち込みが「朝夕」の者を「惣人数」から外したことに因ること、③寛政四年（一七九二）の春季から秋季を境とする大幅な減少（二三一人→一七八人）が、これ以後「朝夕」の者を「惣人数」に入れなくなったことに因るといえる、いずれも記載方法の変更による変化であるということである。手代・子供・下男の三者の合計のみで見れば、天保一二年（一八四〇）秋季の一九九人が最大値になるが、手代人数についてみれば、天明四年（一七八四）と天保一一、一二年に一〇〇人に達しており、この二つの時期にピークを認めることができよう。ちなみに売上高のピークは元

文三年（一七三八）から延享二年（一七四五）の時期である。⁽³⁶⁾

奉公人の構成 「目録吟味寄」によれば、大坂本店の奉公人の構成は、当初は「手代」「子供」「下男」からなるが、寛保二年（一七四二）秋季から、寛政四年（一七九二）春季まで前述の「朝夕」と呼ばれる者たちがあらわれる。この者たちについては未検討であるが、通いの下男のようなものか。天明六年（一七八六）春・秋季に「手伝」、寛政四年（一七九二）秋季に「定詰」という者が一時的にあらわれるが、これらも未検討。

寛政五年（一七九三）秋季以降、「通勤」（宿持手代）が人数のうち計上されるようになる。第14表は、大坂本店の名目役手代の人数を表したものであり、通勤支配以上を見れば、第3表の「通勤」の内訳を知ることができる。⁽³⁷⁾

4 江戸向店

江戸向店は、主として木綿・綿・関東絹などを扱った。貞享四年（一六八七）に江戸駿河町北側に開店、綿店と称した。元禄二年（一六九八）に同町南側にあった江戸本店と位置を交換。享保一四年（一七二九）一月に江戸向店と改称し、本店一卷に編入された。⁽³⁸⁾ 店名前は越後屋八郎兵衛。

第4—1表は、江戸向店の奉公人数を表したものである。享保一四年（一七二九）の「惣人数」は「江戸向店目録吟味寄」に拠った。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」

は「本店一卷目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「江戸向店目録吟味寄」「店々惣目録吟味寄」からとり、江戸向店「小遣目録」⁽³⁹⁾によって補訂した。第4—1表のデータをグラフ化したのが、第2図のうち江戸向店部分である。

綿店時代の奉公人数 「宗感覺帳」⁽⁴⁰⁾の元禄三年（一六九〇）四月「綿店人数立定」によれば、手代二人・子供三人・男一人、合計一六人になっている。

惣人数の変遷 「本店一卷目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第2図によって見れば、一八世紀においては、寛保二年（一七四二）前後、および明和三年（一七六六）前後に人数の急増をみる。最大値は、安永二年（一七七三）春季の一九七人である。ちなみに江戸向店の近世を通じての売上高のピークは延享二年（一七四五）である。⁽⁴¹⁾ 一九世紀においては、一五〇—一六〇人の間で、落ち着いた推移を示すが、嘉永三年（一八五〇）以降急速に減少する。これは江戸本店同様、営業不振と物価高騰により巨大な奉公人組織が維持できなくなったためである。⁽⁴²⁾ 慶応三年（一八六七）秋に規模の大幅な縮小を行なうが、結局、翌明治二年（一八六九）五月、向店は廃止され、奉公人は本店に吸収された。⁽⁴³⁾

奉公人の構成 「目録吟味寄」によれば、江戸向店の奉公人の構成は、「手代」「子供」「下男」からなっていたが、寛保二年（一七四二）秋季から「定詰」⁽⁴⁴⁾（定勤仕）があらわれる

〔ただし「本店一巻目録改帳」の「惣人数」に計上されるのは延享元年（一七四四）春季以降〕。

江戸向店は小売だけでなく、仕入れ業務があつたため、店内組織も売方（売場）と仕入方に分かれていた。⁽⁴⁵⁾「本店一巻目録改帳」では寛政八年（一七九六）から慶応三年（一八六七）春季までは、売方と仕入方それぞれについて「惣人数」が記されている。売方の奉公人について表したものが第4―2表、仕入方の奉公人について表したものが第4―3表である。仕入方は手代・子供のみからなり、定詰（定勤仕）・下男は見られない。嘉永二年（一八四九）秋季を境に、売方の人数の減少、仕入方の人数の増加が見られる。

第15表は、江戸向店の名目役手代数を表したものである。この表の通勤支配役以上は、「本店一巻目録改帳」の「惣人数」に含まれていないものと考えられる。

5 江戸本町一丁目店・芝口店（松坂屋）

(1) 江戸本町一丁目店

江戸本町一丁目店は、もともとは、三井家の縁戚小野田治左衛門の呉服店（松坂屋）で、本町二丁目にあつた。宝永元年（一七〇四）に、三井が経営を肩代わりし、同七年（一七一〇）に店名前を松坂屋八助のまま、本店一巻に組み込んだ。⁽⁴⁶⁾享保元年（一七一六）に本町一丁目に移転し、一丁目店と呼ばれた。

第5表は、江戸本町一丁目店の奉公人数を表したものである。享保一四年（一七二九）の「惣人数」は「江戸芝口店目録吟味寄」に拠つた。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」は「本店一巻目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「江戸芝口店目録吟味寄」からとつた。第5表のデータをグラフ化したのが、第2図のうち江戸本町一丁目店部分である。

惣人数の変遷 「本店一巻目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第2図によって見れば、元文五年（一七四〇）から延享三年（一七四六）の間に人数が急増する。最大値は延享三年（一七四六）春季の一〇八人。⁽⁴⁷⁾ちなみに売上高のピークは元文五年（一七四〇）に記録している。

奉公人の構成 「目録吟味寄」により本町一丁目店の奉公人の構成について見れば、当初は「手代」「子供」「下男」からなつたが、寛保二年（一七四二）春季から「定詰」が記載されるようになる。

(2) 江戸芝口店

本町一丁目店は、明和三年（一七六六）十一月、江戸芝口一丁目に移転・新規開店し、芝口店と呼ばれるようになった。⁽⁴⁸⁾店名前は松坂屋八助のままである。

第6表は、江戸芝口店の奉公人数を表したものである。「惣人数」は「本店一巻目録改帳」から、手代・子供以下の人数に

ついでには「江戸芝口店目録吟味寄」「店々惣目録吟味寄」からとり、江戸芝口店「小遣方目録」⁴⁹によって補訂した。第6表のデータをグラフ化したのが、第2図のうち芝口店部分である。

惣人数の変遷 新しい芝口店では、現銀売り中心の営業形態への転換をはかったことにより、手代・子供の人数が大幅に増加した。「本店一巻目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第2図によって見れば、開店当初（明和四年春季）は一九三人で、もとの本町一丁目店の二倍の規模になっている。またこの時点では江戸向店（一八五人）より、人数が多かったことがわかる。最大値は天明三年（一七八三）秋季の二一七人で、それ以降は減少を続ける。一九世紀前半は、一三〇〜一四〇人台で推移する。嘉永二年（一八四九）以降の減少は、営業不振と物価高騰のため奉公人組織が維持できなくなってきたためだが、⁵⁰ ついには明治元年（一八六八）七月に閉店、芝口店の奉公人は全員解雇の憂き目にあつた。⁵²

奉公人の構成 「目録吟味寄」によれば、芝口店の奉公人は開店以来、「手代」「子供」「下男」「定詰」⁵³からなつた。文久元年（一八六一）春季から「定日勤」という者があらわれるが、これについては未検討⁵⁴。

第16表は江戸芝口店の名目役手代の人数を表したものである。通勤支配役以上は、「本店一巻目録改帳」の「惣人数」に含まれてないものと考えられる。

6 京上之店

上之店は西陣織物の直買店であつた。天和元年（一六八一）西陣で撰糸仲買を営む田宮喜右衛門を三井喜右衛門と改め、西陣撰糸類直買店としたものを、貞享二年（一六八五）寺之内通新猪熊東町に移転したことに始まる。⁵⁵ 店名前は越後屋喜右衛門。

第7表は、京上之店の奉公人数を表したものである。宝永七年（一七一〇）秋季の「惣人数」は京上之店の「目録」⁵⁶から、享保一四年（一七二九）の「惣人数」は「目録吟味寄」からとつた。享保一五年（一七三〇）以降については、「惣人数」は「本店一巻目録改帳」から、手代・子供以下の人数については「上之店目録吟味寄」「店々惣目録吟味寄」からとり、京上之店「目録」⁵⁷によって補訂した。第7表のデータをグラフ化したのが、第2図のうち京上之店部分である。

惣人数の変遷 「本店一巻目録改帳」に記された「惣人数」の変遷を第2図によって見れば、概ね安定的に推移するといえる。一八世紀の中頃から一九世紀の中頃まで三〇人前後で、大きな変化はない。人数の最大値は、安永三年（一七七四）秋季の三九人である。しかし幕末になると減少し、明治元年（一八六八）以降は二〇人を割り込む。

奉公人の構成 「目録吟味寄」によれば、上之店の奉公人は当初より幕末まで「手代」「子供」「下男」からなる。その他は

享保一八年（一七三三）秋季にのみ「雇」の者があらわれるが、これについては未検討。

7 その他

(1) 江戸糸見世

江戸糸見世は、越後屋の別家浅井文右衛門が自分商売として営んでいた糸見世を、安永元年（一七七二）に越後屋の営業組織に組み込んだもので、糸物、組糸類の仕入れと販売を行なった。江戸向店の東隣、室町二丁目西側北角に所在する。店名前は越後屋喜左衛門。

第8表は、「店々惣目録吟味寄」および江戸糸見世「目録」から江戸糸見世の奉公人数を表したものである。この表から、天明元年（一七八二）以降が明らかになる。一九世紀前半までは、ほぼ二〇人台で推移するが、一九世紀後半にかけて奉公人数が増加している。これは越後屋の他の店舗と異なる動きである。安政二年（一八五五）以降の奉公人は三〇人をこえる。最大値は、慶応二年（一八六六）春季、同三年春季の三三人。このような奉公人の増加は江戸糸見世の業績の好調さと照応している。すなわち江戸糸見世は、万延元年（一八六〇）から貿易生糸の取り扱いを開始、売り高を伸ばした。貿易生糸の取り扱いは文久三年（一八六三）秋に停止を余儀なくされたが、従来の糸物商いが好調で、元治・慶応期には売上高を倍増させてい

った。その結果、明治三年（一八七〇）には、大元方の直轄に取り立てられることになる。

その他第8表からは、江戸糸見世の奉公人は「手代」「子供」「下男」からなっていることがわかる。

(2) 横浜店

横浜店は、開港後の安政六年（一八五九）六月横浜本町二丁目に開店。店名前は越後屋八郎右衛門で、江戸本店の出店の形になっている。外国人相手の呉服物の販売と外国方御金御用途としての公金出納を行なったが、呉服物販売はふるわず、文久二年（一八六二）に取り扱いをやめた。その後も御金御用を勤めたが、大量の塞り貸しが発生、慶応二年（一八六六）に新設の御用所に属することになった。

第10表は「店々惣目録吟味寄」に拠って横浜店の奉公人数を表したものである。奉公人数は開店時の三一人がピークで、以後減少するのは、呉服物販売の不振と照応する。

また横浜店の奉公人は「手代」「子供」「下男」からなるが、このほか万延元年（一八六〇）・文久元年（一八六一）の両年には「定詰」がいた。

(3) 京紅店

紅店は、上之店と同じく、京本店の仕入部門のひとつで、江戸・大坂で販売する絹織物に紅染加工を行なった。正徳四年（一七一四）に小川、通下ル小川町西側に開設、享保元年（一七

一六）秋に本店一卷に編入された。⁶³ 店名前は越後屋則右衛門。

第9表は「店々惣目録吟味寄」に拠って京紅店の奉公人数を表したものである。文化一〇年（一八一三）秋季以降があまりかになるが、概ね二〇人前後で推移し、大きな変化が見られない。最大値は天保一二年（一八四〇）秋季の二十八人である。

紅店の奉公人は「手代」「子供」「下男」「紅働キ」からなる。

紅働キは、紅染加工に従事するもので、日割計算の賃銀を受け取る。⁶⁴ その人数は、半季の延べ人数を日数で除して、平均人数として算出されている。⁶⁵

(4) 京勘定場

勘定場は、貞享四年（一六八七）に、幕府の御用呉服物の仕入れを行なう京御用所として京本店内に設けられた。元禄五年（一六九二）に二条油小路町西側に移転。享保八年（一七二三）に勘定場と改称した。天明期以降は、染屋を従属させることで、京本店の染色加工を担当した。店名前は越後屋八郎右衛門。

第11表は「店々惣目録吟味寄」に拠って京勘定場の奉公人数を表したもので、文政八年（一八二五）以降についてあまりかになる。奉公人数は一〇人台で推移し、大きな変化はないが、幕末には減少傾向が明瞭になる。

勘定場の奉公人について、「目録吟味寄」には内訳記載がなく、合計人数のみが記されている。これには「但元方向引残り」という注記があつて、ここに記されているのが、勘定場の

奉公人のうち、大元方が負担する分を引いた残りの人数であることがわかる。

これに関して、弘化四年（一八四七）秋季から安政三年（一八五六）秋季まで残っている勘定場の「目録」⁶⁶を見てみよう。例えば弘化四年秋季には、次のような記載がある。

店雑用 手代七人、子供三人、下男式人、内働式人、来客三人

〆 十七人

内 四人 元方付、白眼

残而 十三人

元方付を除いて一三人というのは、「目録吟味寄」（第11表）の数値と合致するが、これから勘定場の奉公人が「手代」「子供」「下男」「内働」からなることがわかる。「来客」については未検討だが、奉公人ではなく文字どおり来客であるとすれば、その接客の賄費用が、奉公人の経費と一緒に計上されていることになる。また「目録」では、元方付の控除人数は、一貫して四人になっている。第11表において、人数に「半」があらわれるのは、おそらくは「来客」が日割りの平均人数で算出されるためではないかと考えられる。

(1) 大店の奉公人世界の特徴についての私見は、拙稿「大店の奉公人の世界」(『日本都市史入門Ⅲ 人』、東京大学出版会、一九九〇年)を参照されたい。

(2) 『三井事業史 本篇一』(一九八〇年)二四二、三八一ページ他。

(3) 賄方(台所)系統の目録は文政元年(二八一八)以降の分が継続的にまとまって現存するが、その目録の名称は、店によってまちまちである。文政元年(二八一八)春季でみれば、左のとおり。

京本店「小遣方目録」

(三井文庫所蔵史料 続三三九五―三)

江戸本店「小遣目録」

(三井文庫所蔵史料 続三三九七―四)

大坂本店「雑用方目録」

(三井文庫所蔵史料 続三四〇〇―二)

江戸向店「小遣目録」

(三井文庫所蔵史料 続三四〇二―二)

江戸芝口店「小遣方目録」

(三井文庫所蔵史料 続三四〇四―一)

京上之店「目録」

(三井文庫所蔵史料 続三四〇五)

右のうち京本店「小遣方目録」、江戸本店「小遣目録」、大坂本店「雑用方目録」の冒頭部分(人数記載部分)の写

真が三井文庫編『近世後期における主要物価の動態(増補改訂)』(東京大学出版会、一九八九年)に掲載されている。

(4) 賄方系統の目録のほか、越後屋(本店一巻)の奉公人の数を示す史料としては「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本一〇九〇〜本一〇九九)がある。これは「手代の名簿」とでもいうべきもので、京本店・江戸本店・大坂本店・江戸向店・江戸芝口店について、一年毎に、大元以下の名目役手代・平手代の名前と職階を記したものである(記載される手代の人数は賄方系統の目録の人数とは必ずしも符合しない)。京本店については、子供の名前も記され、店表の奉公人の全容がわかるが、付加・削除が多く人数を数えるには適さない。現存するものは左のとおり。

「店々人数留」 明和八年〜安永四年

(三井文庫所蔵史料 本一〇九〇)

「店々人数留」 文化三年〜同六年

(三井文庫所蔵史料 本一〇九一)

「店々人数留」 文化七年〜同一〇年

(三井文庫所蔵史料 本一〇九二)

「店々人数留」 文化十一年〜文政元年

(三井文庫所蔵史料 本一〇九三)

「店々人数留」 文政二年〜同八年

(三井文庫所蔵史料 本一〇九四)

- 〔店々人数留〕 文政九年〜天保三年
 (三井文庫所蔵史料 本一〇九五)
- 〔店々人数控〕 天保四年〜同一〇年
 (三井文庫所蔵史料 本一〇九六)
- 〔店々人数控〕 弘化四年〜安政二年
 (三井文庫所蔵史料 本一〇九七)
- 〔店々人数書帳〕 安政三年〜慶応二年
 (三井文庫所蔵史料 本一〇九九)
- 〔店々人数書帳〕 慶応三年〜明治四年
 (三井文庫所蔵史料 本一〇九九)
- (5) 「本店一卷目録改帳」は、店ごとに、勘定項目ごとに、数十年間分の数値を表化したもの（写真1参照）。ある項目についての数十年にわたる数値の変化を見るのに適した史料である。現存する「本店一卷目録改帳」は左のとおり。
- 〔本店一卷目録改帳〕 享保一五年〜明和四年
 (三井文庫所蔵史料 本八三〇)
- 〔本店一卷目録改帳〕 明和四年〜安永三年
 (三井文庫所蔵史料 本八三一)
- 〔本店一卷目録改帳〕 安永四年〜文化九年
 (三井文庫所蔵史料 本八三二)
- 〔本店一卷目録改帳〕 文化九年〜嘉永二年
 (三井文庫所蔵史料 本八三三)

The image shows two pages of a handwritten Japanese account book. The pages are filled with columns of text, likely representing names of employees and their corresponding numbers or counts. The handwriting is in cursive (sōsho) style. The right page has a vertical title '石坂用' (Ishizaka no Yō) and '惣人数目録' (Sōjūnin no Moku-roku). The columns are organized into several vertical sections, with some larger characters at the top of each section, possibly indicating different departments or types of employees. The numbers are written in smaller characters, often with vertical lines or dots, possibly representing specific counts or rates.

写真1 「本店一卷目録改帳」による「惣人数」記載例（京本店出所）「本店一卷目録改帳」（三井文庫所蔵史料 本830）。

「本店」巻目録改帳 嘉永三年〜明治四年

(三井文庫所蔵史料 本八三四)

(6) 「目録吟味寄」は、店ごとに、節季ごとに、各勘定項目の数値を表象化したもの(写真2参照)。ある店の、特定の時期の、勘定項目全体の数値を概覧するのに適した史料である。文化九年(一八一二)までは、店ごとに別々の冊子にまとめられているが、同一〇年以降は、各店が一冊にまとめられ、「店々惣目録吟味寄」となる。現存する「目録吟味寄」は左のとおり。

「京本店目録吟味寄 春季」 享保一四年〜文化九年

(三井文庫所蔵史料 本八四七)

「京本店目録吟味寄 秋季」 享保一四年〜文化九年

(三井文庫所蔵史料 本八四八)

「江戸本店目録吟味寄 春季」 享保一四年〜文化九年

(三井文庫所蔵史料 本八三七)

「江戸本店目録吟味寄 秋季」 享保一四年〜文化九年

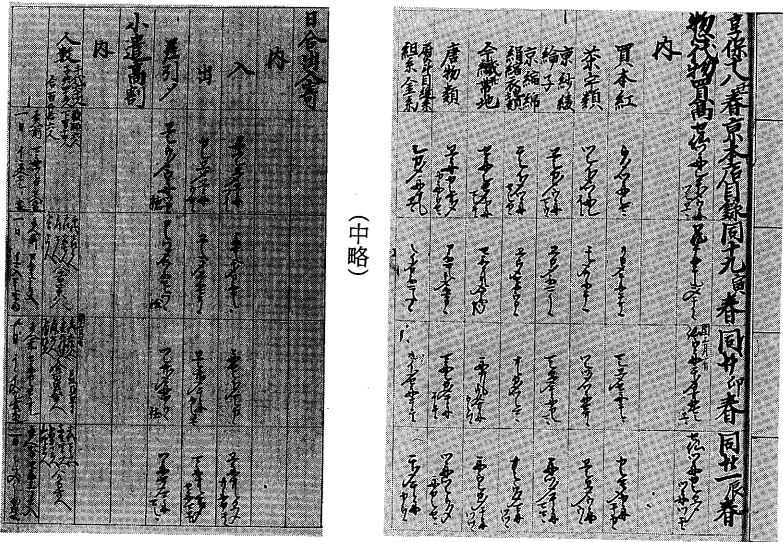
(三井文庫所蔵史料 本八三八)

「大坂本店目録吟味寄 春季」 享保一四年〜文化九年

(三井文庫所蔵史料 本八四五)

「大坂本店目録吟味寄 秋季」 享保一四年〜文化九年

(三井文庫所蔵史料 本八四六)



(中略)

写真2 「目録吟味寄」記載例(京本店)
出所)「京本店目録吟味寄」(三井文庫所蔵史料 本847)。
注) 左側の写真の左端が人数記載部分。

- 〔江戸向店目録吟味寄 春季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八三九〕
- 〔江戸向店目録吟味寄 秋季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四〇〕
- 〔江戸芝口店目録吟味寄 春季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四一〕
- 〔江戸芝口店目録吟味寄 秋季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四二〕
- 〔上之店目録吟味寄 春季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四九〕
- 〔上之店目録吟味寄 秋季〕 享保一四年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五〇〕
- 〔江戸糸見世目録吟味寄 春季〕 天明三年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四三〕
- 〔江戸糸見世目録吟味寄 秋季〕 天明三年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四四〕
- 〔勘定場紅店目録吟味寄 春季〕 安永二年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四三〕
- 〔勘定場紅店目録吟味寄 秋季〕 安永二年～文化九年
 〔三井文庫所蔵史料 本八四四〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 文化一〇年～同一三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五一〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 文化一〇年～同一三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五二〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 文化一四年～文政三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五三〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 文化一四年～文政三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五四〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 文政四年～同 七年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五五〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 文政四年～同 七年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五六〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 文政八年～天保三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五七〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 文政八年～天保三年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五八〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 天保四年～同一一年
 〔三井文庫所蔵史料 本八五九〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 天保四年～同一一年
 〔三井文庫所蔵史料 本八六〇〕
- 〔店々惣目録吟味寄 春〕 天保一二年～嘉永五年
 〔三井文庫所蔵史料 本八六一〕
- 〔店々惣目録吟味寄 秋〕 天保一二年～嘉永五年
 〔三井文庫所蔵史料 本八六二〕

〔店々惣目録吟味寄 春〕 嘉永六年〜万延元年

(三井文庫所蔵史料 本八六三)

〔店々惣目録吟味寄 秋〕 嘉永六年〜万延元年

(三井文庫所蔵史料 本八六四)

〔店々惣目録吟味寄 春〕 文久元年〜明治元年

(三井文庫所蔵史料 本八六五)

〔店々惣目録吟味寄 秋〕 文久元年〜明治元年

(三井文庫所蔵史料 本八六六)

〔店々惣目録吟味寄 春〕 明治三、四年

(三井文庫所蔵史料 本八六七)

〔店々惣目録吟味寄 秋〕 明治二、三年

(三井文庫所蔵史料 本八六八)

(7) 〔三井事業史 本篇一〕(二九八〇年) 二二、六八二ページ。

(8) 京本店「小遣目録」(三井文庫所蔵史料 本二〇二七―七)。

(9) 京本店「小遣方目録」(三井文庫所蔵史料 続三三九五―三三六)。

(10) 〔商売記〕(三井事業史 資料篇一) 三二ページ、資料三、一九七三年。

(11) 〔家内諸事申渡判形帳〕(三井文庫所蔵史料 別九六五)。

(12) 〔三井事業史 本篇二〕四三、四四ページ。

(13) 〔三井事業史 本篇一〕一六二ページ。

(14) 京本店「小遣方目録」(三井文庫所蔵史料 続三三九五―三三六)。

(15) 〔三井事業史 本篇一〕二五五ページ。

(16) 京本店「目録」(三井文庫所蔵史料 続三四〇九)。

(17) 嘉永三年春季の京本店「小遣方目録」(三井文庫所蔵史料 続四二六四―三)の奉公人数が記載される箇所には

「昨春季迄通勤之者客来之処ニ而相調其外少々調方相改候

ニ付何れも齟齬仕候」という付箋がある。

(18) 京本店から、京本店が所在する冷泉町(室町通二条上

ル)へ提出された人別書上にあらわれる、京本店の奉公人

数と「本店一巻目録改帳」「目録吟味寄」にあらわれる数

字とを比較してみたい。

(a) 寛延二年(一七四九)九月「宗門人別帳」(冷泉町文

書二一)には、越後屋八郎右衛門の家内として、手代

一〇人(子供を含むカ)、下人一八人、計二八人が

宗旨別に記される。第1表の同年春季の「惣人数」は一

四九人(手代六六人・子供五九人・裁師五人・下男一九

人)。

(b) 安永五年(一七七六)八月「宗門人別帳」(冷泉町文

書二一六)には、手代一二人(子供を含むカ)、下男

一七人、計二九人の奉公人が宗旨別に記される。第1

表の同年春季の「惣人数」は一四八人。

- (c) 安永七年（一七七八）七月「宗門改帳」（冷泉町文書二一七—一）には、手代一〇四人（子供を含むカ）、下男一七人、計一二四人の奉公人が宗旨別に記される。第1表の同年春季の「惣人数」は一五三人（手代七三人・子供五三人・裁師六人・下男二人）。
- (d) 安永九年（一七八〇）八月「宗門改帳」「冷泉町文書二一七—三」には、手代一一三人（子供を含むカ）、下男二〇人、計一三三人の奉公人が宗旨別に記される。第1表によれば同年春季の「惣人数」は一六六人（手代七六人・子供六四人・裁師五人・下男二人）。
- (e) 天明元年（一七八二）七月「家内宗門御改帳」（冷泉町文書二一七—四）には、手代一一六人（子供を含むカ）、下男二〇人、計一三六人の奉公人が宗旨別に記される。第1表の同年春季の「惣人数」は一四七人（手代七六人・子供四五人・裁師五人・下男二人）。
- (f) 元治元年（一八六四）三月「人別調書」（冷泉町文書二—三）には、「新七」（店限通勤支配格・井口新七）を筆頭にして、手代五五人、子供二四人、下男二四人、計一〇三人が記される。第1表によれば同年春季の手代（通勤を含まず）は五六人、子供二六人、下男二六人、計一〇八人になっている。

このうち(f)については、町へ提出した書上にあらわれる人数と「本店一卷目録改帳」など越後屋内部の資料の人数とがおおむね一致すると言えるが、(a)〜(e)については越後屋内部の資料による人数の方がかなり多くなっている。この理由は未検討。

- (19) 『三井事業史 本篇一』一九、二四、三三、六八二ページ。
 (20) 江戸本店「小遣目録」（三井文庫所蔵史料 本二〇三三—一六、本二〇二六一—三、本一六一—一・二、本二〇二二—一七・八）。
 (21) 江戸本店「小遣目録」（三井文庫所蔵史料 続三三九四—四）。
 (22) 三井礼子・山口栄蔵「三井八郎兵衛高利記『諸法度集』について——延宝期江戸呉服店の店式目——」（三井文庫論叢」創刊号、一九六七年）。
 (23) 『商売記』（三井事業史 資料篇一）三〇ページ、資料三三。
 (24) 『宗寿覚帳』（写）（三井文庫所蔵史料 特二二七）。
 (25) 『宗感覺帳』（写）（三井文庫所蔵史料 特二一九）。
 (26) 『三井事業史 本篇一』二七三ページ。
 (27) 『三井事業史 本篇一』六四三ページ。
 (28) 賀川隆行『近世三井経営史の研究』（吉川弘文館、一九

八五年) 四五五ページ。

(29) 文政元年(一八一八)以降の江戸本店「小遣目録」(三井文庫所蔵史料 続三三九七―四)での奉公人の記載は手代・子供・台所(Ⅱ下男)・定詰の順になっており、定詰は最末尾である。

(30) 大工町中店と通称され、本店中店と向店中店とからなる。「商売記」(三井事業史 資料篇一)四二ページ、資料三)によれば、三井高富(高利次男)が「本店・綿店大変のときは用に立申積り」という意図で設置したのが始まりとされる。中店には、米土蔵・味噌置場・紙細工場等の他、奉公人の療養のための病人部屋が設けられた(「文政十二年丑年本店本普請絵図面」三井文庫所蔵史料 本一二九五―一、「文政十二年丑年本普請大工町中店絵図面」三井文庫所蔵史料 本一二九五―一四)。

(31) 江戸本店の台所(下男)人数に含まれる中店の人数は左のとおり。

文政 元年(一八一八)	春季	一七人	秋季	一九人
文政 二年(一八一九)	春季	一八人	秋季	一八人
文政 三年(一八二〇)	春季	一六人	秋季	一八人
文政 四年(一八二二)	春季	一八人	秋季	一八人
文政 五年(一八二三)	春季	一八人	秋季	一八人
文政 六年(一八二三)	春季	一八人	秋季	—

文政 七年(一八二四)	春季	一八人	秋季	一七人
文政 八年(一八二五)	春季	一七人	秋季	一八人
文政 九年(一八二六)	春季	一八人	秋季	—
文政一〇年(一八二七)	春季	一九人	秋季	一八人
文政一一年(一八二八)	春季	一八人	秋季	一八人
文政一二年(一八二九)	春季	一八人	秋季	一七人
天保 元年(一八三〇)	春季	一八人	秋季	一八人
天保 二年(一八三一)	春季	一八人	秋季	一七人
天保 三年(一八三二)	春季	一七人	秋季	一七人
天保 四年(一八三三)	春季	一七人	秋季	一七人
天保 五年(一八三四)	春季	一七人	秋季	一八人
天保 六年(一八三五)	春季	一八人	秋季	一八人
天保 七年(一八三六)	春季	一八人	秋季	一八人
天保 八年(一八三七)	春季	一八人	秋季	一八人
天保 九年(一八三八)	春季	一九人	秋季	一八人

(32) 天保一〇年春季の江戸本店の「小遣目録」(三井文庫所蔵史料 続三九五九―一)には、人数記載部分に「此度方中店人数相除、定詰之者相改候ニ付惣人数相減申候」という付箋がある。

(33) 「三井事業史 本篇一」三八ページ。

(34) 大坂本店「寅春半年目録」(三井文庫所蔵史料 本二〇二三―二三)、目録(三井文庫所蔵史料 本二〇二三―

- 一七）、「雑用目録」（三井文庫所蔵史料 本二二八八一）。
- (35) 大坂本店「雑用方目録」（三井文庫所蔵史料 続三四〇〇—二）
- (36) 『三井事業史 本篇一』二七四ページ。
- (37) 大坂本店の所在する大坂高麗橋一丁目については、嘉永四年一〇月「家持借屋人別判形帳」の存在が知られている（松本四郎「大坂北組高麗橋一丁目家持借家人別判形帳」、『三井文庫論叢』九号、一九七五年）。この史料では、大坂本店については「三井八郎右衛門出店」として、嘉五郎（支配役倉野嘉五郎）以下一八〇人の奉公人（松本氏の推定によれば、手代八五人・子供七五人・下男二〇人）が記されている。「家持借屋人別判形帳」中の異動記載から、同年末の時点の奉公人数は、一七七人と計算できる。第3表によれば、嘉永四年（二八五二）秋季の「通勤」を除いた奉公人数は一六八人（手代八九人・子供六一人・下男一人）であり、「家持借屋人別判形帳」の人数より少ない。注（18）であげた京本店の事例とは逆のずれが生じている。この理由については未検討。
- (38) 『三井事業史 本篇一』三六、一八四、六八二ページ。
- (39) 江戸向店「小遣目録」（三井文庫所蔵史料 続三四〇二—二）。
- (40) 「宗感覺帳」(写)（三井文庫所蔵史料 特一一九）。
- (41) 『三井事業史 本篇一』二七三ページ。
- (42) 『三井事業史 本篇一』六四三、六四四ページ。
- (43) 賀川隆行『近世三井経営史の研究』四五五ページ。
- (44) 文政元年（二八一八）以降の江戸向店「小遣目録」（三井文庫所蔵史料 続三四〇二—）には、「定勤仕」（定詰）は、手代・子供のあと、下男の前に記されている。
- (45) 『三井事業史 本篇一』一八五ページ。
- (46) 『三井事業史 本篇一』七八—七九ページ。まだ本町二丁目に店舗があった時期の奉公人数としては、正徳三年（二七一三）秋季の「小遣方目録」（三井文庫所蔵史料 本二〇三—一六）に手代二十七人、子供一五人、下男七人、計四九人が記載されている。
- (47) 『三井事業史 本篇一』二七三ページ。
- (48) 『三井事業史 本篇一』二八二ページ。
- (49) 江戸芝口店「小遣方目録」（三井文庫所蔵史料 続三四〇四—一）。
- (50) 『三井事業史 本篇一』二八四ページ。
- (51) 『三井事業史 本篇一』六四三ページ。
- (52) 賀川隆行『近世三井経営史の研究』四五五ページ。
- (53) 文政元年（二八一八）以降の江戸芝口店「小遣方目録」（三井文庫所蔵史料 続三四〇四—一）での記載順は、

手代・定詰・子供・下男である。

- (54) 文久元年春季の「小遣方目録」(三井文庫所蔵史料 続四五六九一)には、「是迄定日勤之者書載不申、当季も書加申候」という付箋がある。また記載順は、手代・定日勤・子供・定詰・下男になっている。

- (55) 『三井事業史 本篇一』三六、三七ページ。

- (56) 京上之店「目録」(三井文庫所蔵史料 本二〇二六一—九)。

- (57) 京上之店「目録」(三井文庫所蔵史料 続三四〇五)。

- (58) 『三井事業史 本篇一』六一四、六一五ページ。

- (59) 「江戸抱屋敷絵図」(三井文庫所蔵史料 追六九七)。

- (60) 江戸糸見世「目録」(三井文庫所蔵史料 本二一四四—二一四六、別五五四、別五六八)。

- (61) 『三井事業史 本篇一』二七、二八、四四ページ。

- (62) 『三井事業史 本篇一』六一一、六一二、六六三—六六五ページ。

- (63) 『三井事業史 本篇一』一六九ページ。

- (64) 『三井事業史 本篇一』三九二ページ。

- (65) 「目録吟味寄」に「紅働キ」として記されている人数の

数値は「雑用目録」(三井文庫所蔵史料 本二一五四)によれば、紅働キのみならず、それに台所雇、客来を加えた延人数を期間内日数で割ったものであることがわかる。た

- とえば天保十一年(一八四〇)秋季について見れば、紅働キ一〇八人・台所雇四四人・客来九三人の合計一四五人を期間日数一六四で除して七人という数値を出している。ただし延人数の九割がたは、紅働キであるので、全体を紅働キの日割人数として見なして大差ないとも言える。なお賀川隆行『近世三井経営史の研究』三八八ページ参照。
- (66) 賀川隆行『近世三井経営史の研究』三七三、三七四ページ。

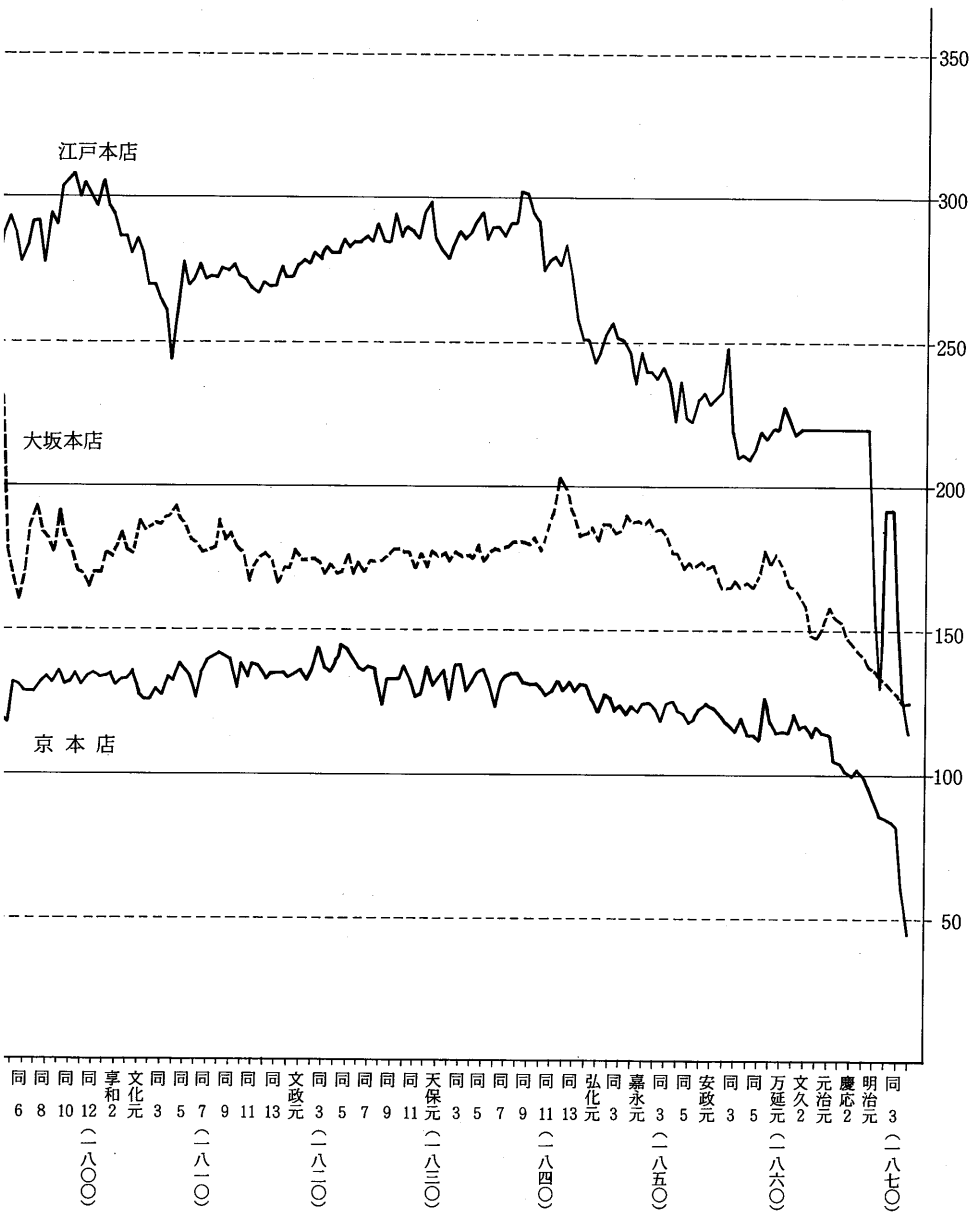
- (67) 勘定場「目録」(三井文庫所蔵史料 別六八三)。

弘化四年(一八四七)秋季から安政三年(一八五六)秋季までの、勘定場の奉公人の内訳を次に記す。

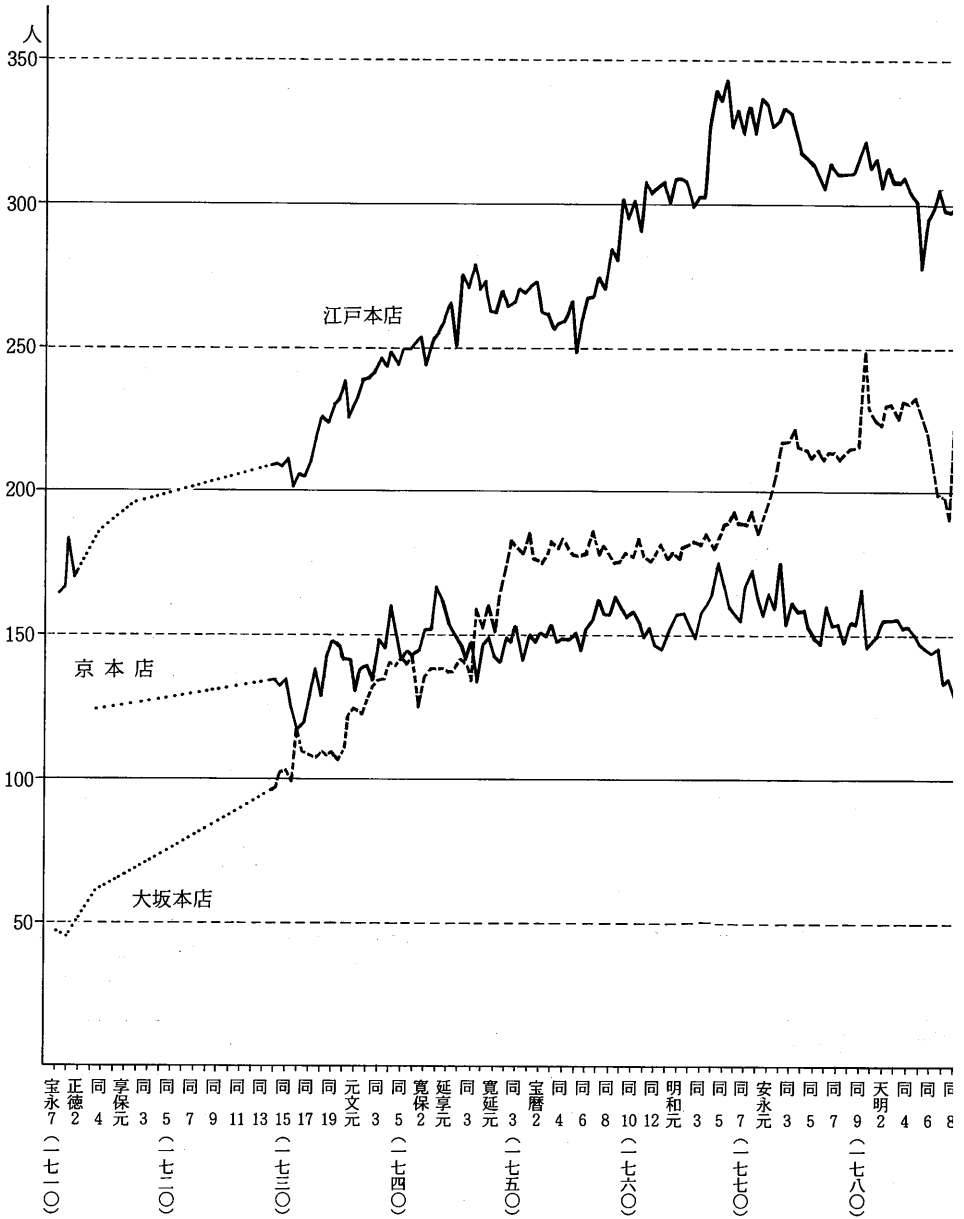
年・季	手代	子供	下男	内働	来客	内元方付
弘化四年秋季	七	三	二	二	三	四
嘉永元年春季	七	五	二	二	三	四
秋季	七	五	二	二	三	四
嘉永二年春季	五	五	二	二	三	四
秋季	五	五	二	二	三	四
嘉永三年春季	六	四	二	二	三	四
秋季	六	四	二	二	三	四
嘉永四年春季	五	五	二	二	三	四

越後屋（本店一巻）店々奉公人数（西坂）

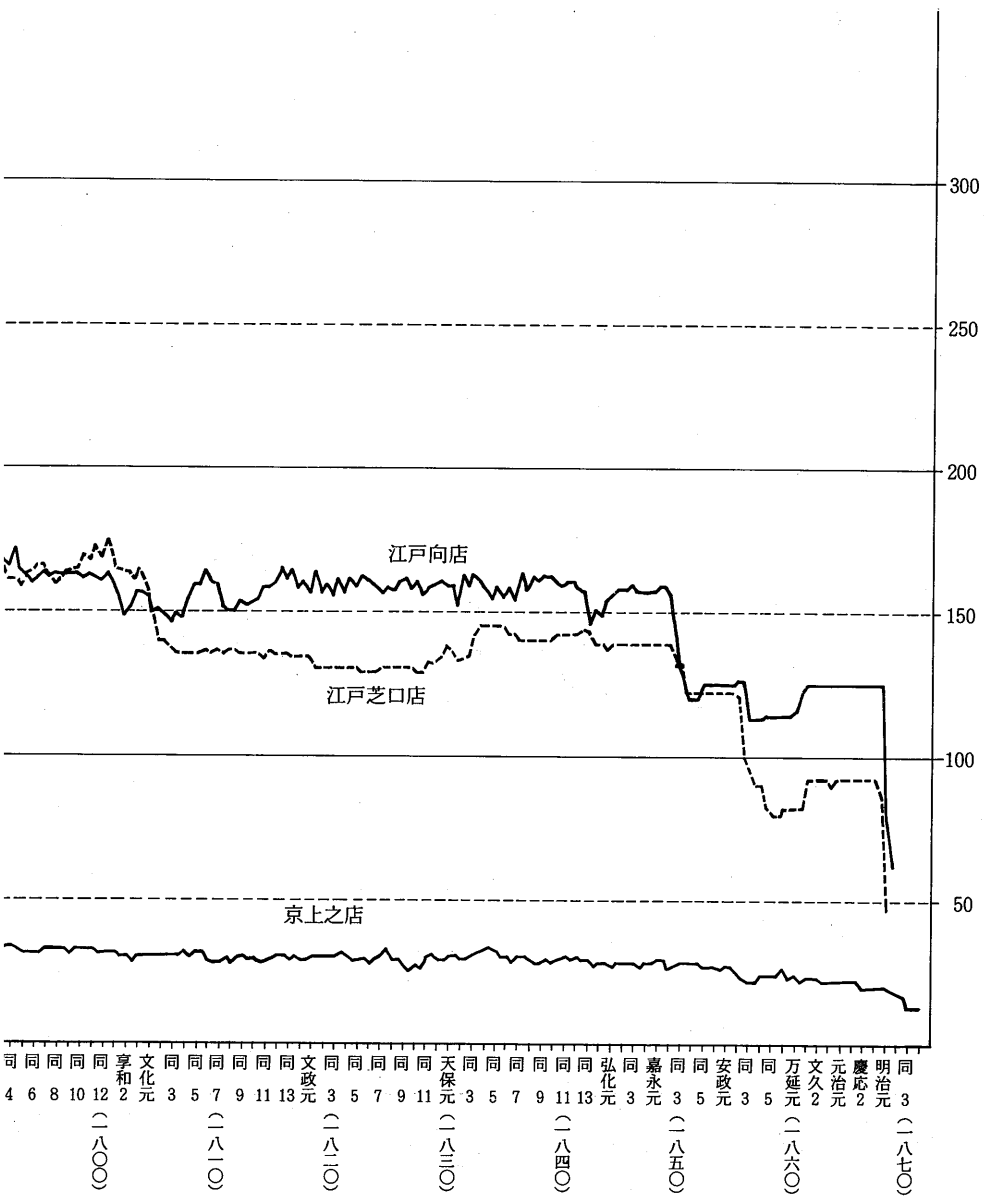
	安政三年春季	秋季	安政二年春季	秋季	安政元年春季	秋季	嘉永六年春季	秋季	嘉永五年春季	秋季
	六	六	六	六	六	六	六	六	六	五
	四	五	四	五	四	五	五	五	五	五
	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四



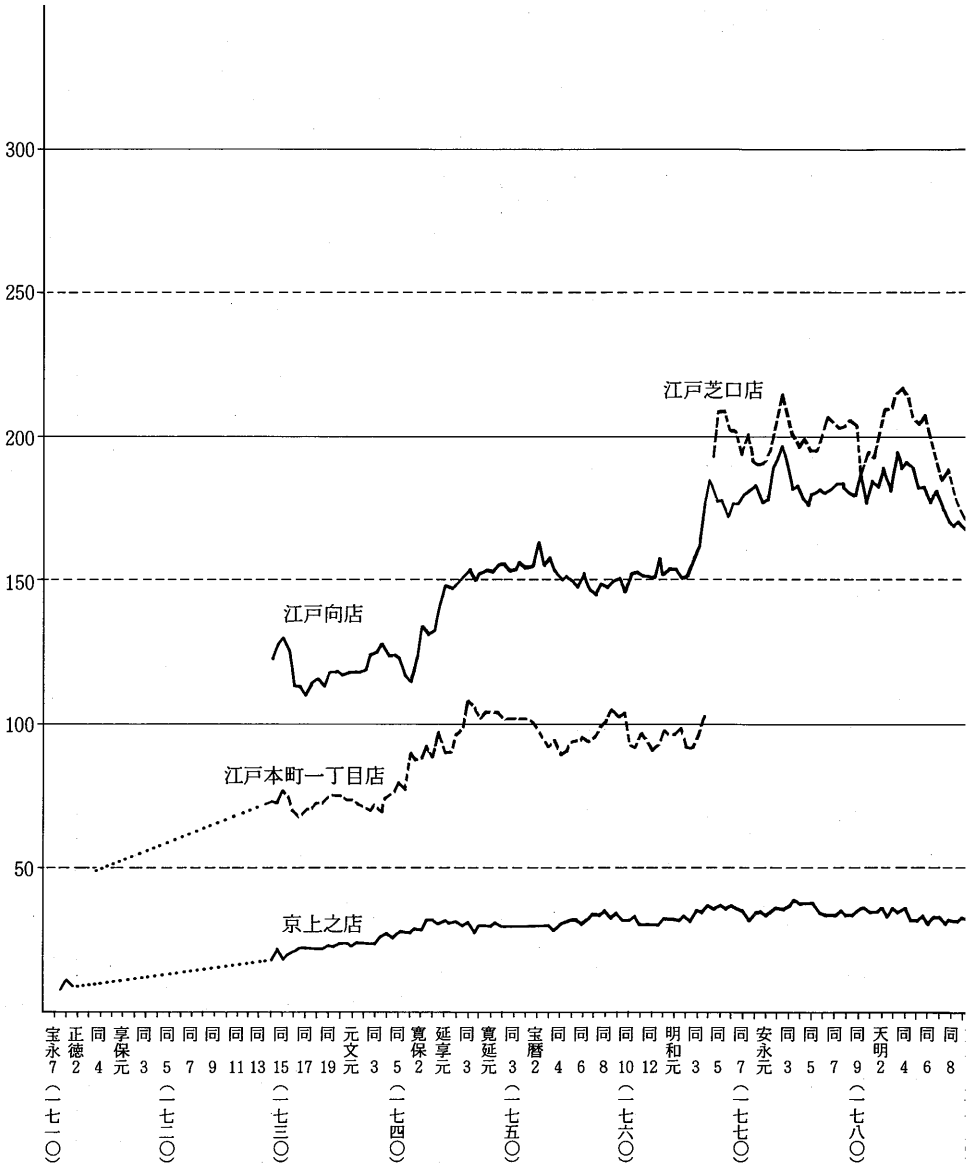
第1図 京本店・江戸本店・大坂本店の「惣人数」



注) 第1表, 第2表, 第3表より作成。



第2図 江戸向店・本町一丁目店・芝口店・京上之店の「惣人数」



注) 第4-1表, 第5表, 第6表, 第7表より作成。

第1表 京本店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	裁師	下男	年季	惣人数	手代	子供	裁師	下男
正徳3年 (1713) 春秋	人 124	人 -	人 -	人 -	人 -	元文5年 (1740) 春秋	人 141	人 67	人 52	人 5	人 17
享保14年 (1729) 春秋	134	-	-	-	-	寛保元年 (1741) 春秋	144	74	47	6	17
享保15年 (1730) 春秋	132	-	-	-	-	寛保2年 (1742) 春秋	143	76	44	6	17
享保16年 (1731) 春秋	134	-	-	-	-	寛保3年 (1743) 春秋	143	74	46	6	17
享保17年 (1732) 春秋	124	-	-	-	-	延享元年 (1744) 春秋	151	80	49	5	17
享保18年 (1733) 春秋	116	-	-	-	-	延享2年 (1745) 春秋	166	81	48	5	17
享保19年 (1734) 春秋	119	-	-	-	-	延享3年 (1746) 春秋	160	80	64	5	17
享保20年 (1735) 春秋	127	-	-	-	-	寛延元年 (1747) 春秋	154	83	54	6	17
元文元年 (1736) 春秋	138	-	-	-	-	寛延2年 (1748) 春秋	150	80	52	5	17
元文2年 (1737) 春秋	126	61	45	6	14	寛延3年 (1749) 春秋	154	76	51	5	18
元文3年 (1738) 春秋	142	70	51	7	14	宝暦元年 (1750) 春秋	147	72	51	6	18
元文4年 (1739) 春秋	148	71	57	6	14	宝暦3年 (1751) 春秋	141	69	51	5	16
	146	71	56	5	14		147	71	53	5	18
	141	68	54	6	13		133	69	41	5	18
	141	66	56	6	13		146	-	-	-	-
	141	66	56	6	13		148	69	55	5	19
	130	71	41	6	12		142	64	54	5	19
	137	73	46	6	12		140	64	52	5	19
	139	63	57	6	13		149	66	59	5	19
	134	59	52	6	17		147	65	57	6	19
	148	64	63	5	16		152*	58	61	5	19
	145	66	57	6	16		140	63	52	6	19
	160	68	67	6	19		150	65	61	5	19
	149	67	57	6	19		147	66	57	5	19

年 季	惣人数	手代	子供	教師	下男	年 季	惣人数	手代	子供	教師	下男
宝曆 2年 春秋	150	69	56	5	20	明和 2年 春秋	147	-	-	-	-
(1752) 春秋	149	70	54	5	20	(1765) 春秋	149	72	51	6	20
宝曆 3年 春秋	153	70	59	5	19	明和 3年 春秋	158	-	-	-	-
(1753) 春秋	147	70	53	5	19	(1766) 春秋	160	74	60	6	20
宝曆 4年 春秋	148	71	54	4	19	明和 4年 春秋	164	-	-	-	-
(1754) 春秋	148	71	53	4	20	(1767) 春秋	174	78	70	6	20
宝曆 5年 春秋	149	71	54	4	20	明和 5年 春秋	167	-	-	-	-
(1755) 春秋	144	69	51	4	20	(1768) 春秋	159	76	57	6	20
宝曆 6年 春秋	152	69	58	4	21	明和 6年 春秋	157	74	57	6	21
(1756) 春秋	155	67	64	4	20	(1769) 春秋	155	-	-	-	-
宝曆 7年 春秋	162	-	-	-	-	明和 7年 春秋	167	69	69	8	21
(1757) 春秋	157	74	58	5	20	(1770) 春秋	172	-	-	-	-
宝曆 8年 春秋	157	-	-	5	20	明和 8年 春秋	163	74	60	9	20
(1758) 春秋	163	74	64	5	20	(1771) 春秋	166	-	-	-	-
宝曆 9年 春秋	159	-	-	-	20	安永元年 春秋	164	-	-	-	-
(1759) 春秋	156	75	57	4	20	(1772) 春秋	158	-	-	-	-
宝曆 10年 春秋	158	77	57	4	20	安永 2年 春秋	175	77	68	9	21
(1760) 春秋	154	76	54	4	20	(1773) 春秋	153	-	-	-	-
宝曆 11年 春秋	149	72	53	4	20	安永 3年 春秋	161	71	62	8	20
(1761) 春秋	152	-	-	-	20	(1774) 春秋	158	-	-	-	-
宝曆 12年 春秋	146	69	53	4	20	安永 4年 春秋	158	-	-	-	-
(1762) 春秋	145	69	51	5	20	(1775) 春秋	152	-	-	-	-
宝曆 13年 春秋	150	-	-	-	20	安永 5年 春秋	148	-	-	-	-
(1763) 春秋	154	75	52	7	20	(1776) 春秋	146	-	-	-	-
明和元年 春秋	157	74	56	7	20	安永 6年 春秋	160*	75	63	5	22
(1764) 春秋	157	75	55	7	20	(1777) 春秋	153	-	-	-	-

第1表 (続き)

年季	惣人数	手代	子供	裁師	下男	年季	惣人数	手代	子供	裁師	下男
安永 7年 (1778) 春秋	153 147	73 -	53 -	6 -	21 -	寛政 2年 (1790) 春秋	121 119	61 55	36 39	1 1	23 24
安永 8年 (1779) 春秋	154 153	73 -	58 -	3 -	20 -	寛政 3年 (1791) 春秋	116 118	53 56	40 39	1 1	22 22
安永 9年 (1780) 春秋	166 145	76 -	64 -	5 -	21 -	寛政 4年 (1792) 春秋	120 118	52 54	45 39	1 2	22 23
天明元年 (1781) 春秋	147 149	76 -	45 -	5 -	21 -	寛政 5年 (1793) 春秋	132 131	63 64	45 45	1 1	23 21
天明 2年 (1782) 春秋	155 155	78 -	51 -	4 -	22 -	寛政 6年 (1794) 春秋	129 129	64 63	43 43	1 1	21 22
天明 3年 (1783) 春秋	155 152	73 -	57 -	3 -	22 -	寛政 7年 (1795) 春秋	129 132	63 65	44 44	1 1	21 22
天明 4年 (1784) 春秋	152 150	74 -	53 -	2 -	23 -	寛政 8年 (1796) 春秋	134 132	63 63	47 42	2 2	22 25
天明 5年 (1785) 春秋	147 145	72 -	50 -	2 -	23 -	寛政 9年 (1797) 春秋	136 131	65 65	48 40	2 2	21 24
天明 6年 (1786) 春秋	144 145	73 -	49 -	2 -	20 -	寛政 10年 (1798) 春秋	132 135	62 65	48 46	1 2	21 22
天明 7年 (1787) 春秋	133 134	68 -	43 -	2 -	20 -	寛政 11年 (1799) 春秋	131 134	66 66	42 44	2 2	21 22
天明 8年 (1788) 春秋	128 122	- -	- -	- -	- -	寛政 12年 (1800) 春秋	135 134	68 70	44 40	2 2	21 22
寛政元年 (1789) 春秋	116 121	64 64	37 34	1 1	20 22	享和元年 (1801) 春秋	134 135	72 71	39 40	2 2	21 22

(第四) 縣人公學校之沿革 (附一) 沿革圖

年 季	人數	手代	子供	裁師	下男	年 季	人數	手代	子供	裁師	下男	定詰
享和 2年 (1802)	131	73	34	2	22	文化12年 春秋	140*	65	45	2	23	-
享和 3年 (1803)	133	71	38	2	22	文化13年 春秋	135	67	45	1	22	-
文化元年 (1804)	136	71	41	2	21	文化14年 春秋	135	68	44	1	22	-
文化 2年 (1805)	128	64	40	2	22	文化14年 春秋	134	68	44	1	21	-
文化 3年 (1806)	126	64	38	2	22	文政元年 春秋	135	69	43	1	22	-
文化 4年 (1807)	126	62	40	2	22	文政2年 春秋	136	70	44	1	21	-
文化 5年 (1808)	130	64	40	2	24	文政3年 春秋	133	70	44	1	22	-
文化 6年 (1809)	128	-	-	-	-	文政4年 春秋	137	73	42	1	21	-
文化 7年 (1810)	134	62	45	2	25	文政5年 春秋	144	74	47	1	22	-
文化 8年 (1811)	133	64	44	2	23	文政6年 春秋	137	73	42	1	21	-
文化 9年 (1812)	139	68	45	2	24	文政7年 春秋	136	75	38	1	22	-
文化 10年 (1813)	136	64	47	2	23	文政8年 春秋	139	75	43	1	20	-
文化 11年 (1814)	134	65	43	2	24	文政9年 春秋	145	79	43	1	22	-
春秋	127	66	39	2	20	文政10年 春秋	143	-	-	-	-	-
春秋	135	63	45	2	24	文政10年 春秋	140	77	41	2	22	-
春秋	140	66	52	2	23	文政10年 春秋	137	76	41	2	20	-
春秋	141	66	50	2	23	文政10年 春秋	136	78	36	2	22	-
春秋	142	67	51	2	22	文政10年 春秋	137	79	37	2	21	-
春秋	141	65	51	2	23	文政10年 春秋	136	77	38	2	21	-
春秋	140	69	47	2	22	文政10年 春秋	124	63	40	2	21	-
春秋	130	65	40	2	23	文政10年 春秋	128	73	33	2	22	-
春秋	138	69	45	2	22	文政10年 春秋	133	68	42	2	22	1
春秋	134	66	43	2	23	文政10年 春秋	133	67	44	2	22	-
春秋	138	64	49	2	23	文政10年 春秋	137	72	44	2	21	-
春秋	137	65	47	2	23	文政10年 春秋	138	73	38	2	22	-

第1表 (続き)

年季	物人数	手代	子供	下男	年季	物人数	通勤	手代	子供	下男
文政11年 (1828)	127	68	38	21	天保11年 (1840)	129	人	67	41	21
文政12年 (1829)	128	69	36	23	天保12年 (1841)	133	-	68	41	24
天保元年 (1830)	137	69	46	22	天保13年 (1842)	130	-	67	42	21
天保2年 (1831)	131	64	44	23	天保14年 (1843)	132	-	69	41	22
天保3年 (1832)	133	65	46	22	天保元年 (1844)	129	-	67	40	22
天保4年 (1833)	136	66	48	22	弘化2年 (1845)	131	-	68	41	22
天保5年 (1834)	126	65	40	21	弘化3年 (1846)	131	-	67	42	22
天保6年 (1835)	138	66	49	23	弘化4年 (1847)	126	-	66	41	19
天保7年 (1836)	132	65	52	21	嘉永元年 (1848)	122	-	60	41	21
天保8年 (1837)	129	64	42	23	嘉永2年 (1849)	128	-	62	44	22
天保9年 (1838)	132	66	44	22	嘉永3年 (1850)	127	-	63	42	22
天保10年 (1839)	136	69	46	23	嘉永4年 (1851)	123	-	59	42	22
	136	68	44	22		124	-	62	41	21
	136	67	42	22		121	-	64	35	22
	131	62	40	22		124	-	64	39	21
	124	68	40	23		122	-	65	35	22
	131	69	43	22		125	-	66	38	21
	134	68	44	23		125	-	67	36	22
	135	68	45	22		123	-	63	39	21
	135	69	40	23		119	-	62	35	22
	132	69	40	22		125	5	58	39	23
	131	66	42	23		126	5	57	40	24
	131	64	45	21		122	5	56	38	23
	130	65	40	23		121	5	55	37	24
	128			23						

年季	惣人数	運動	手代	子供	下男	年季	惣人数	運動	手代	子供	下男
嘉永5年 (1852) 春秋	119人	5人	55人	36人	23人	文久2年 (1862) 春秋	117人	3人	59人	33人	22人
嘉永6年 (1853) 春秋	120人	5人	56人	35人	24人	文久3年 (1863) 春秋	113人	4人	59人	29人	21人
安政元年 (1854) 春秋	123人	5人	57人	38人	23人	元治元年 (1864) 春秋	117人	5人	57人	32人	23人
安政2年 (1855) 春秋	125人	5人	59人	37人	24人	慶応元年 (1865) 春秋	115人	5人	60人	25人	25人
安政3年 (1856) 春秋	124人	5人	60人	36人	23人	慶応2年 (1866) 春秋	114人	6人	56人	26人	26人
安政4年 (1857) 春秋	122人	5人	56人	37人	24人	慶応3年 (1867) 春秋	105人	6人	55人	21人	23人
安政5年 (1858) 春秋	119人	5人	57人	35人	22人	明治元年 (1868) 春秋	104人	6人	52人	23人	23人
安政6年 (1859) 春秋	117人	4人	57人	33人	23人	明治2年 (1869) 春秋	101人	5人	53人	20人	23人
安政7年 (1860) 春秋	115人	5人	55人	33人	22人	明治3年 (1870) 春秋	100人	4人	51人	22人	23人
安政8年 (1861) 春秋	115人	5人	60人	33人	22人	明治4年 (1871) 春秋	101人	4人	51人	24人	22人
	120人	5人	57人	31人	22人		96人	5人	52人	21人	22人
	114人	4人	57人	31人	22人		100人	5人	50人	19人	22人
	114人	4人	57人	28人	22人		91人	5人	44人	20人	22人
	112人	5人	57人	41人	22人		86人	5人	41人	18人	22人
	127人	5人	61人	37人	22人		85人	4人	40人	19人	22人
	123人	3人	58人	31人	22人		84人	4人	38人	20人	22人
	115人	4人	56人	34人	22人		82人	5人	38人	19人	20人
	115人	3人	56人	34人	22人		59人	5人	29人	13人	12人
	121人	4人	59人	36人	22人		45人	4人	22人	11人	8人
	116人	4人	58人	33人	21人						

(原題) 繁人傳(五) (總一冊) 圖録

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830～本834), 「京本店目録吟味寄」(同 本847, 本848), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851～本868), 「小遣目録」(同 本2027-7), 「小遣方目録」(同 巻 3395-3)。

注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の船傭は「小遣方目録」に拠って訂正した。

第2表 江戸本店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
宝永7年 (1710) 春秋	164 166	84 83	50 54	30 29	元文2年 (1737) 春秋	239 241	112 117	74 73	53 51	-
正徳元年 (1711) 春秋	183 170	85 97	61 37	37 36	元文3年 (1738) 春秋	246 243	110 115	82 75	54 53	-
正徳3年 (1713) 春秋	-	-	-	-	元文4年 (1739) 春秋	248 244	122 116	75 78	51 50	-
享保元年 (1716) 春秋	185 195	106 111	44 47	35 37	元文5年 (1740) 春秋	249 249	119 115	79 81	51 53	-
享保14年 (1729) 春秋	209	-	-	-	寛保元年 (1741) 春秋	251 253*	115 110	79 70	53 48	18
享保15年 (1730) 春秋	208 210	-	-	-	寛保2年 (1742) 春秋	243 252	114 111	78 75	53 47	-
享保16年 (1731) 春秋	201 205	-	-	-	寛保3年 (1743) 春秋	255 259	120 115	65 78	57 53	10
享保17年 (1732) 春秋	204 209	-	-	-	延享元年 (1744) 春秋	265 250*	120 123	76 79	53 54	9
享保18年 (1733) 春秋	218 225	-	-	-	延享2年 (1745) 春秋	275 270	119 126	77 87	54 53	9
享保19年 (1734) 春秋	223 229	109 114	57 55	59 54	延享3年 (1746) 春秋	278 273	126 127	82 88	52 54	10
享保20年 (1735) 春秋	232 238	111 118	64 62	58 50	寛延元年 (1747) 春秋	272 262*	122 117	83 80	53 60	10
元文元年 (1736) 春秋	225 222	116 118	59 61	50 53	寛延元年 (1748) 春秋	262 269	117 125	79 70	59 57	9
	238	114	76	48		269	130	73	56	10

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
寛延 2年 (1749)	264	129	71	54	10	宝曆12年 (1762)	305	146	81	68	10
寛延 3年 (1750)	265	127	75	54	9	宝曆13年	307	151	75	71	10
宝曆元年 (1751)	270	125	77	59	9	明和元年 (1763)	300	151	66	73	10
宝曆2年 (1752)	269	128	78	56	7	明和2年 (1764)	308	153	73	72	10
宝曆3年 (1753)	271	127	77	58	9	明和3年 (1765)	308	155	71	71	10
宝曆4年 (1754)	272	131	77	55	9	明和4年 (1766)	307	154	72	73	8
宝曆5年 (1755)	262	127	66	60	9	明和5年 (1767)	299	152	72	68	7
宝曆6年 (1756)	261	128	72	52	9	明和6年 (1768)	302	152	69	73	8
宝曆7年 (1757)	261	123	65	59	9	明和7年 (1769)	302	143	78	78	10
宝曆8年 (1758)	256	121	69	59	9	明和8年 (1770)	328	146	93	79	10
宝曆9年 (1759)	258	119	73	58	9	明和9年 (1771)	328	148	99	81	11
宝曆10年 (1760)	259	119	78	57	7	安永元年 (1772)	335	148	96	81	10
宝曆11年 (1761)	285	123	80	55	9	安永2年 (1773)	332	155	98	79	10
	248	116	68	57	9	安永3年 (1774)	342	147	90	79	10
	260	114	80	57	9		326	147	90	79	10
	267	126	71	60	10		332	154	89	79	10
	266	122	75	59	10		324	149	85	80	10
	274	131	70	63	10		333	153	93	78	9
	270	128	72	61	9		324	153	89	73	9
	280	129	80	65	9		336	154	95	77	10
	280	135	72	64	9		334	150	98	76	10
	301	139	76	77	9		326	150	89	77	10
	294	142	74	69	9		327	148	95	74	10
	300	140	75	76	9		333	159	87	77	10
	290	141	71	76	8		331	156	87	78	10
	307	143	78	77	9		325	151	89	75	10
	303	145	78	70	10		317	155	79	73	10

(坂田) 公儀人数 (卷一) 店名 (後)

第2表 (続き)

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
安永 4年 (1775) 春秋	315 人	150	81	74	10	天明 7年 (1787) 春秋	297	133	83	71	10
安永 5年 (1776) 春秋	313	147	83	73	10	天明 8年 (1788) 春秋	297	126	88	74	9
安永 6年 (1777) 春秋	310	145	81	74	10	寛政元年 (1789) 春秋	298	126	89	73	10
安永 7年 (1778) 春秋	305	135	86	74	10	寛政 2年 (1790) 春秋	292	130	81	71	10
安永 8年 (1779) 春秋	314	141	90	73	10	寛政 3年 (1791) 春秋	293	125	85	73	10
安永 9年 (1780) 春秋	310	140	90	70	10	寛政 4年 (1792) 春秋	288	125	85	73	10
天明元年 (1781) 春秋	310	143	84	73	10	寛政 5年 (1793) 春秋	284	131	73	74	10
天明 2年 (1782) 春秋	310	141	86	73	10	寛政 6年 (1794) 春秋	278	127	76	71	10
天明 3年 (1783) 春秋	310	141	81	74	10	寛政 7年 (1795) 春秋	280	128	73	71	6
天明 4年 (1784) 春秋	316	145	81	72	10	寛政 8年 (1796) 春秋	277	126	75	72	7
天明 5年 (1785) 春秋	321	143	91	72	10	寛政 9年 (1797) 春秋	288	124	75	72	6
天明 6年 (1786) 春秋	312	147	88	76	10	寛政 10年 (1798) 春秋	294	124	84	73	7
	315	145	82	75	10		288	130	82	75	7
	305	143	85	77	10		294	128	80	73	7
	312	145	82	75	10		288	128	80	73	7
	305	140	82	73	10		278	124	76	71	7
	312	140	86	76	10		283	126	78	72	7
	307	139	88	70	10		292	137	78	70	7
	307	135	95	67	10		292	130	82	73	7
	308	140	87	71	10		278	128	75	68	7
	304	134	92	68	10		295	134	82	72	7
	301	141	84	71	5		291	134	75	75	7
	277	128	75	69	5		304	141	80	76	7
	294	143	75	70	6		306	149	75	75	7
	298	141	78	72	7		308	145	81	75	7
	305*	139	89	77	9		300	148	71	74	7

年 季	總人數	手代	子供	下男	定詰	年 季	總人數	手代	子供	下男	定詰
寬政 11 年 (1799)	305*	145	81	73	7	文化 9 年 (1812)	277	128	70	72	7
寬政 12 年 (1800)	301	146	75	73	7	春 秋 (1812)	273	127	70	69	7
享和元年 (1801)	297	145	73	72	7	春 秋 (1813)	272	-	-	-	-
享和 2 年 (1802)	306	148	76	75	7	文化 11 年 (1814)	269	128	64	70	7
享和 3 年 (1803)	297	136	82	72	7	春 秋 (1815)	267	-	-	-	-
文化元年 (1804)	294	140	75	73	6	文化 12 年 (1816)	271	127	67	70	7
文化 2 年 (1805)	287	134	73	76	4	春 秋 (1817)	270*	126	65	72	7
文化 3 年 (1806)	281	138	69	73	7	文化 13 年 (1818)	270*	129	72	71	7
文化 4 年 (1807)	286	132	68	75	5	春 秋 (1819)	277*	129	69	73	7
文化 5 年 (1808)	281	132	69	73	7	文化 14 年 (1820)	273	125	70	73	7
文化 6 年 (1809)	286	132	68	73	7	春 秋 (1821)	273	119	65	73	7
文化 7 年 (1810)	270	126	64	75	5	文化 15 年 (1822)	278	117	66	72	5
文化 8 年 (1811)	275	125	65	73	7	春 秋 (1823)	279	113	64	73	5
	276	116	69	73	7	文化 16 年 (1824)	278	113	74	74	5
	275	117	65	72	7	春 秋 (1825)	281	113	74	74	5
		112	58	67	7	文化 17 年 (1826)	283	114	75	89	5
		118	65	71	6	春 秋 (1827)	281	117	65	94	5
		126	69	76	7	文化 18 年 (1828)	286	119	62	95	5
		128	65	71	6	春 秋 (1829)	281	119	65	94	5
		123	69	70	7	文化 19 年 (1830)	286	122	65	94	5
		125	77	71	7	春 秋 (1831)	283	121	65	92	5
		118	70	70	7	文化 20 年 (1832)	285	121	65	94	5
		123	78	70	7	春 秋 (1833)	285	121	66	93	5
		124	73	72	7	文化 21 年 (1834)	287	130	68	93	5
		124	73	72	7	春 秋 (1835)	285	130	65	85	5
		124	74	70	7	文化 22 年 (1836)	291	126	68	92	5

(左記) 總人數之由 (上一世) 圖後續

第2表 (続き)

年 季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年 季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
文政 8 年 (1825)	285	124	55	101	5	天保 8 年 (1837)	302	134	76	87	5
文政 9 年 (1826)	285	127	58	95	5	天保 9 年 (1838)	301	140	68	88	5
文政 10 年 (1827)	295	125	70	95	5	天保 10 年 (1839)	295	129	66	95	5
文政 11 年 (1828)	287	127	60	95	5	天保 11 年 (1840)	292	125	70	92	5
文政 12 年 (1829)	290	126	65	94	5	天保 12 年 (1841)	275	119	78	71	7
天保元年 (1830)	289	130	60	94	5	天保 13 年 (1842)	278	129	66	76	7
天保 2 年 (1831)	286	123	62	96	5	天保 14 年 (1843)	280	130	69	74	7
天保 3 年 (1832)	295	118	77	95	5	天保 元年 (1848)	277	132	64	74	7
天保 4 年 (1833)	286	118	75	97	5		284	125	77	75	7
天保 5 年 (1834)	299	122	75	93	5		272	122	69	74	7
天保 6 年 (1835)	286	123	65	93	5		259	122	65	65	7
天保 7 年 (1836)	282	114	68	95	5		251	115	64	65	7
	279	115	64	96	5		251	116	59	65	7
	284	117	66	97	5		243	120	55	65	7
	289	125	62	93	5		247	112	55	65	7
	286	132	56	85	5		253	123	58	65	7
	288	130	68	83	5		252	118	67	65	7
	292	121	73	93	5		251	117	62	65	7
	295	125	72	93	5		247	110	61	69	7
	286	120	68	95	5		236	95	65	69	7
	290	123	69	93	5		247	110	61	69	7
	287	130	59	93	5		240	99	65	69	7
	291	129	64	88	5		240	99	65	69	7
	291	131	67	88	5		240	96	68	69	7

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
嘉永 2年 (1849)	238	93	69	69	7	文久元年 (1861)	218	75	68	67	8
嘉永 3年	242	90	76	69	7	文久 2年	220	76	68	68	8
(1850)	236	91	69	69	7	(1862)	220	75	69	68	8
嘉永 4年	223	84	63	69	7	文久 3年	220	76	69	67	8
(1851)	237	85	76	69	7	(1863)	220	75	69	68	8
嘉永 5年	224	84	64	69	7	元治元年 (1864)	220	94	50	68	8
(1852)	223	94	57	65	7	慶応 2年	220	94	47	68	8
嘉永 6年	230	96	62	65	7	(1865)	220	97	49	68	8
(1853)	233	93	67	66	7	慶応 3年	220	95	49	68	8
安政元年	229	88	73	61	7	(1866)	220	95	48	68	8
(1854)	231	85	71	68	7	慶応 4年	220	96	51	68	8
安政 2年	233	85	64	67	7	(1867)	220	93	53	68	8
(1855)	248	97	76	66	7	明治元年	220	91	49	68	8
安政 3年	218	97	48	66	7	(1868)	220	95	49	68	8
(1856)	211	92	46	66	7	明治 2年	155	57	45	45	8
安政 4年	211	94	45	65	7	(1869)	130	52	35	38	5
(1857)	210	87	50	66	7	明治 3年	192	79	46	60	7
安政 5年	213	90	48	68	7	(1870)	155	79	46	45	10
(1858)	219	88	56	68	7	明治 4年	125	60	40	35	6
安政 6年	217	91	51	69	7	(1871)	125	49	35	35	6
(1859)	220	87	56	65	8						
万延元年	220	89	58	65	8						
(1860)	228	88	68	65	7						
秋	223	86	62	67	8						

(原題) 惣人数の増減 (和十世) 惣人数

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830~本834), 「江戸本店目録吟味寄」(同 本837, 本838), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851~本868), 「小遣目録」(同 本2023-16, 本2026-13, 本1611-1・2, 本2023-7・8, 続 3397-4~)。注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の翻題は「小遣目録」に拠って訂正した。

第3表 大坂本店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男	朝夕
宝永7年 (1710) 春秋	47 人	-	-	-	元文3年 (1738) 春秋	134 人	80 人	43 人	11 人	-
正徳元年 (1711) 春秋	45	-	-	-	元文4年 (1739) 春秋	135	79	45	11	-
正徳3年 (1713) 春秋	-	-	-	-	元文5年 (1740) 春秋	140	77	51	12	-
	-	-	-	-	寛保元年 (1741) 春秋	139	79	48	12	-
	61	34	22	5	寛保2年 (1742) 春秋	142	78	52	12	-
享保14年 (1729) 春秋	97	-	-	-	寛保3年 (1743) 春秋	139	80	46	13	-
享保15年 (1730) 春秋	102	-	-	-	寛保元年 (1744) 春秋	142	76	53	13	-
享保16年 (1731) 春秋	103	-	-	-	寛保2年 (1745) 春秋	124	71	42	12	-
享保17年 (1732) 春秋	99	-	-	-	寛保3年 (1746) 春秋	135	75	46	14	-
享保18年 (1733) 春秋	117	-	-	-	寛保元年 (1747) 春秋	138*	76	49	14	26
享保19年 (1734) 春秋	109	-	-	-	寛保2年 (1748) 春秋	138*	77	47	14	29
享保20年 (1735) 春秋	108	-	-	-	寛保3年 (1749) 春秋	137*	78	46	14	29
元文元年 (1736) 春秋	108	-	-	-	寛保元年 (1740) 春秋	137*	81	42	14	30
元文2年 (1737) 春秋	107	-	-	-	寛保2年 (1741) 春秋	137*	81	42	14	30
	109	-	-	-	寛保3年 (1742) 春秋	137*	78	45	14	28
	108	-	-	-	寛保元年 (1743) 春秋	141*	81	46	14	28
	109	-	-	-	寛保2年 (1744) 春秋	139*	77	47	15	21
	108	-	-	-	寛保3年 (1745) 春秋	134*	78	41	15	27
	109	-	-	-	寛保元年 (1746) 春秋	159	77	39	15	28
	106	-	-	-	寛保2年 (1747) 春秋	152	69	42	15	26
	110	-	-	-	寛保3年 (1748) 春秋	160	69	45	15	31
	121	-	-	-	寛保元年 (1749) 春秋	151	68	41	15	27
	122	-	-	-		165	76	47	15	27
	122	-	-	-		174	76	53	16	29
	127	-	-	-		172	78	51	16	27
	132	-	-	-						

年季	惣人数	手代	子供	下男	朝夕	年季	惣人数	手代	子供	下男	朝夕
寛延 3年 (1750) 春秋	180 人	81 人	56 人	16 人	27 人	宝暦13年 (1763) 春秋	176 人	86 人	41 人	16 人	33 人
宝暦元年 (1751) 春秋	178 人	77 人	59 人	16 人	26 人	明和元年 (1764) 春秋	178 人	89 人	41 人	15 人	33 人
宝暦 2年 (1752) 春秋	176 人	80 人	52 人	16 人	30 人	明和 2年 (1765) 春秋	180 人	88 人	40 人	16 人	32 人
宝暦 3年 (1753) 春秋	175 人	79 人	50 人	16 人	26 人	明和 3年 (1766) 春秋	181 人	89 人	42 人	16 人	33 人
宝暦 4年 (1754) 春秋	177 人	82 人	49 人	16 人	30 人	明和 4年 (1767) 春秋	182 人	89 人	43 人	16 人	33 人
宝暦 5年 (1755) 春秋	182 人	85 人	51 人	16 人	30 人	明和 5年 (1768) 春秋	181 人	91 人	42 人	16 人	33 人
宝暦 6年 (1756) 春秋	180 人	87 人	45 人	16 人	32 人	明和 6年 (1769) 春秋	185 人	92 人	39 人	16 人	34 人
宝暦 7年 (1757) 春秋	182 人	88 人	46 人	16 人	29 人	明和 7年 (1770) 春秋	180 人	88 人	46 人	16 人	26 人
宝暦 8年 (1758) 春秋	178 人	86 人	46 人	17 人	30 人	明和 8年 (1771) 春秋	184 人	90 人	48 人	16 人	25 人
宝暦 9年 (1759) 春秋	177 人	89 人	42 人	17 人	31 人	明和 9年 (1772) 春秋	188 人	96 人	46 人	17 人	29 人
宝暦10年 (1760) 春秋	177 人	87 人	41 人	17 人	30 人	安永元年 (1773) 春秋	189 人	95 人	47 人	17 人	29 人
宝暦11年 (1761) 春秋	178 人	85 人	41 人	17 人	30 人	安永 2年 (1774) 春秋	192 人	98 人	45 人	17 人	29 人
宝暦12年 (1762) 春秋	177 人	86 人	46 人	17 人	32 人	安永 3年 (1775) 春秋	188 人	93 人	53 人	15 人	29 人
	185 人	85 人	50 人	17 人	29 人	安永 4年 (1776) 春秋	193 人	94 人	50 人	15 人	29 人
	178 人	86 人	43 人	17 人	31 人		188 人	94 人	53 人	15 人	31 人
	177 人	88 人	46 人	17 人	30 人		191 人	89 人	55 人	17 人	32 人
	181 人	89 人	44 人	16 人	29 人		185 人	83 人	55 人	17 人	30 人
	178 人	89 人	41 人	16 人	29 人		198 人	85 人	62 人	15 人	29 人
	175 人	88 人	42 人	16 人	30 人		191 人	87 人	64 人	16 人	31 人
	176 人	89 人	40 人	16 人	33 人		206 人	89 人	65 人	17 人	35 人
	177 人	87 人	42 人	16 人	32 人		217 人	92 人	74 人	18 人	33 人
	183 人	87 人	48 人	16 人	32 人		217 人	97 人	65 人	19 人	36 人
	177 人	88 人	41 人	16 人	32 人		221 人	96 人	68 人	20 人	37 人
	175 人	89 人	41 人	16 人	29 人		215 人	97 人	66 人	19 人	33 人
	177 人	90 人	42 人	16 人	29 人		214 人	96 人	65 人	20 人	37 人
	181 人	87 人	47 人	16 人	31 人		212 人	98 人	60 人	20 人	34 人

(五) 惣人数(人) 惣人数(人) (宝暦元年)

第3表(続き)

年季	惣人数	手代	子供	下男	朝夕	手伝	年季	惣人数	運動	手代	子供	下男	朝夕	定詰
安永5年 (1776) 春秋	214 人	99	59	20	36	—	天明8年 (1788) 春秋	235 人	—	94	78	19	44	—
安永6年 (1777) 春秋	211	98	54	20	39	—	寛政元年 (1789) 春秋	225	—	88	75	19	43	—
安永7年 (1778) 春秋	213	98	59	20	36	—	寛政2年 (1790) 春秋	228	—	89	76	19	44	—
安永8年 (1779) 春秋	213	94	62	20	37	—	寛政3年 (1791) 春秋	225	—	88	74	19	44	—
安永9年 (1780) 春秋	210	94	60	19	37	—	寛政4年 (1792) 春秋	230	—	88	78	19	45	—
天明元年 (1781) 春秋	213	96	61	20	36	—	寛政5年 (1793) 春秋	232	—	88	81	19	44	—
天明2年 (1782) 春秋	215	94	64	20	37	—	寛政6年 (1794) 春秋	230	—	89	78	19	44	—
天明3年 (1783) 春秋	215	93	66	20	36	—	寛政7年 (1795) 春秋	238	—	92	82	20	44	—
天明4年 (1784) 春秋	248	97	72	20	59	—	寛政8年 (1796) 春秋	231	—	91	76	20	44	—
天明5年 (1785) 春秋	229*	97	73	20	36	—	寛政9年 (1797) 春秋	178	—	89	69	18	—	2
天明6年 (1786) 春秋	225*	96	68	19	42	—	寛政10年 (1798) 春秋	168	—	83	68	17	—	—
天明7年 (1787) 春秋	223	94	70	20	39	—	寛政11年 (1799) 春秋	160	3	77	64	16	—	—
	229	93	76	21	39	—		171	—	78	76	17	—	—
	230	94	76	21	39	—		186	3	85	81	17	—	—
	225	95	71	21	38	—		193	3	87	85	18	—	—
	231	95	77	21	38	—		184	3	88	76	17	—	—
	230	100	74	19	37	—		181	3	91	69	18	—	—
	233	100	77	19	37	—		177*	3	94	65	17	—	—
	228	98	73	19	38	—		192	2	96	77	17	—	—
	221	98	69	19	35	—		182	2	94	67	19	—	—
	208*	98	83	20	35	—		179	2	91	68	18	—	—
	199*	84	90	19	38	6		171	3	84	67	17	—	—
	198*	95	83	19	38	—		170	3	85	65	17	—	—
	190*	93	78	19	38	—		166	3	84	62	17	—	—

年季	人物数	運動	手代	子供	下男	年季	人物数	運動	手代	子供	下男
寛政12年 (1800) 春秋	170 人	3	89 人	60 人	18 人	文化10年 (1813) 春秋	178 人	3	95 人	62 人	18 人
享和元年 (1801) 春秋	170 人	3	90 人	59 人	18 人	文化11年 (1814) 春秋	167 人	3	86 人	60 人	18 人
享和2年 (1802) 春秋	177 人	4	94 人	61 人	18 人	文化12年 (1815) 春秋	172 人	3	88 人	63 人	18 人
享和3年 (1803) 春秋	176 人	4	91 人	63 人	18 人	文化13年 (1816) 春秋	175 人	2	90 人	65 人	18 人
文化元年 (1804) 春秋	179 人	4	95 人	62 人	18 人	文化14年 (1817) 春秋	177 人	3	92 人	64 人	18 人
文化2年 (1805) 春秋	184 人	4	96 人	66 人	18 人	文化15年 (1818) 春秋	177 人	3	92 人	64 人	18 人
文化3年 (1806) 春秋	178 人	4	95 人	61 人	18 人	文化16年 (1819) 春秋	175 人	4	92 人	61 人	18 人
文化4年 (1807) 春秋	177 人	4	95 人	60 人	18 人	文化17年 (1820) 春秋	172 人	4	89 人	59 人	18 人
文化5年 (1808) 春秋	188 人	4	98 人	68 人	18 人	文化18年 (1821) 春秋	178 人	3	86 人	65 人	18 人
文化6年 (1809) 春秋	185 人	4	97 人	66 人	18 人	文化19年 (1822) 春秋	172 人	3	86 人	65 人	18 人
文化7年 (1810) 春秋	186 人	4	95 人	69 人	18 人	文化20年 (1823) 春秋	175 人	3	87 人	67 人	18 人
文化8年 (1811) 春秋	187 人	4	93 人	72 人	18 人	文化21年 (1824) 春秋	175 人	3	82 人	72 人	18 人
文化9年 (1812) 春秋	187 人	4	95 人	70 人	18 人	文化22年 (1825) 春秋	175 人	3	87 人	67 人	18 人
	190 人	4	95 人	77 人	18 人		174 人	3	87 人	66 人	18 人
	194 人	4	97 人	75 人	18 人		170 人	3	87 人	62 人	18 人
	189 人	4	93 人	74 人	18 人		173 人	3	90 人	62 人	18 人
	186 人	4	88 人	76 人	18 人		170 人	4	86 人	62 人	18 人
	182 人	4	90 人	70 人	18 人		171 人	4	89 人	60 人	18 人
	180 人	4	88 ^(*) 人	90 ^(*) 人	18 人		176 人	4	88 人	66 人	18 人
	177 人	4	90 人	65 人	18 人		170 人	4	88 人	60 人	18 人
	178 人	4	90 人	66 人	18 人		174 人	4	87 人	65 人	18 人
	179 人	4	92 人	65 人	18 人		170 人	4	86 人	62 人	18 人
	189 人	3	94 人	74 人	18 人		174 人	4	88 人	64 人	18 人
	182 人	3	95 人	66 人	18 人		174 人	4	87 人	65 人	18 人
	184 人	3	95 人	68 人	18 人		174 人	3	89 人	64 人	18 人
	180 人	3	93 人	66 人	18 人		176 人	3	90 人	65 人	18 人

(原図) 越前藩之世(御一四本) 圖後趣

第3表(続き)

年季	惣人数	通勤	手代	子供	下男	年季	惣人数	通勤	手代	子供	下男
文政9年 (1826)	178	3	89	68	18	天保9年 (1838)	180	4	92	66	18
文政10年 (1827)	178	4	89	67	18	天保10年 (1839)	182	4	96	64	18
文政11年 (1828)	177	4	89	66	18	天保11年 (1840)	178	4	93	63	18
文政12年 (1829)	172	4	92	58	18	天保12年 (1841)	184	4	96	65	18
天保元年 (1830)	177	4	90	65	18	天保13年 (1842)	191	4	96	73	18
天保2年 (1831)	172	4	90	60	18	天保14年 (1843)	203	4	101	80	18
天保3年 (1832)	178	4	90	66	18	弘化元年 (1844)	200	4	104	74	18
天保4年 (1833)	176	3	90	65	18	弘化2年 (1845)	193	3	101	71	18
天保5年 (1834)	177	3	92	64	18	弘化3年 (1846)	200	4	104	74	18
天保6年 (1835)	174	3	89	62	20	弘化4年 (1847)	190	4	99	70	18
天保7年 (1836)	177	3	89	63	18	嘉永元年 (1848)	184	3	97	68	18
天保8年 (1837)	176	3	88	66	18	嘉永2年 (1849)	187	3	99	66	18
	175	5	89	63	18		187	4	97	68	18
	180	4	91	67	18		187	4	95	67	18
	174	4	89	63	18		184	4	97	68	18
	177	4	88	67	18		185	4	97	66	18
	178	4	93	63	18		190	4	99	69	18
	175	4	95	58	18		188	4	98	68	18
	179	3	96	62	18		188	4	98	68	18
	181	3	92	68	18		187	4	98	67	18
	181	3	95	65	18		189	4	98	69	18
	181	3	93	67	18		185	3	99	65	18
	181	3	93	67	18		185	3	98	66	18

年季	惣人数	通勤	手代	子供	下男	年季	惣人数	通勤	手代	子供	下男
嘉永 3年 春	183	4	95	66	18	文久元年 春	165	3	82	62	18
(1850) 秋	177	4	91	64	18	(1861) 秋	162	3	81	60	18
嘉永 4年 春	177	4	91	64	18	文久 2年 春	159	3	77	61	18
(1851) 秋	172	4	89	61	18	(1862) 秋	149	3	71	57	18
嘉永 5年 春	174	4	88	64	18	文久 3年 春	148	4	69	57	18
(1852) 秋	172	4	88	62	18	(1863) 秋	152	4	71	59	18
嘉永 6年 春	174	4	87	65	18	元治元年 春	158	4	72	64	18
(1853) 秋	172	4	87	63	18	(1864) 秋	155	4	73	60	18
安政元年 春	173	4	88	63	18	慶応元年 春	153	4	73	58	18
(1854) 秋	168	4	88	58	18	(1865) 秋	148	4	69	57	18
安政 2年 春	165	3	86	58	18	慶応 2年 春	146	4	69	55	18
(1855) 秋	165	3	88	56	18	(1866) 秋	143	4	66	55	18
安政 3年 春	168	3	88	59	18	慶応 3年 春	141	4	65	54	18
(1856) 秋	165	3	86	58	18	(1867) 秋	138	4	64	52	18
安政 4年 春	167	3	87	59	18	明治元年 春	136	5	62	51	18
(1857) 秋	165	3	86	58	18	(1868) 秋	134	3	62	51	18
安政 5年 春	170	3	89	60	18	明治 2年 春	132	3	61	50	18
(1858) 秋	178	3	90	67	18	(1869) 秋	130	3	68	41	18
安政 6年 春	173	3	90	62	18	明治 3年 春	128	3	67	40	18
(1859) 秋	177	2	90	67	18	(1870) 秋	125	3	58	46	18
万延元年 春	172	3	87	64	18	明治 4年 春	115	3	55	39	18
(1860) 秋	166	3	83	62	18	(1871) 秋					

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830～本884), 「大坂本店目録吟味寄」(同 本845, 本846), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851～本868), 「寛春半年目録」(同 本2023-23), 「目録」(同 本2023-17), 「雑用方目録」(同 本1288-1), 「雑用方目録」(同 繰3400-2～)。

注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の粗鹵は「雑用方目録」に拠って訂正した。

(原形) 総人数、通勤、手代、子供、下男 (単位: 人)

第4-1表 江戸向店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
享保14年 (1729) 春秋	122 127	- -	- -	- -	寛保元年 (1741) 春秋	115 124	61 68	30 32	24	-
享保15年 (1730) 春秋	130	-	-	-	寛保2年 (1742) 春秋	134	63	37	26	8
享保16年 (1731) 春秋	125	-	-	-	寛保3年 (1743) 春秋	131*	71	34	26	7
享保17年 (1732) 春秋	113	-	-	-	延享元年 (1744) 春秋	132*	73	30	29	7
享保18年 (1733) 春秋	110	-	-	-	延享2年 (1745) 春秋	142*	76	39	27	7
享保19年 (1734) 春秋	114	-	-	-	延享3年 (1746) 春秋	148	76	39	27	6
享保20年 (1735) 春秋	116	62	28	26	延享4年 (1747) 春秋	147	76	40	25	6
元文元年 (1736) 春秋	113	62	26	25	寛延元年 (1748) 春秋	149	77	39	27	6
元文2年 (1737) 春秋	118	64	28	26	寛延2年 (1749) 春秋	151	85	36	25	5
元文3年 (1738) 春秋	118	63	28	26	寛延3年 (1750) 春秋	153	79	42	28	4
元文4年 (1739) 春秋	118	62	27	25	寛延4年 (1751) 春秋	149	81	38	26	4
元文5年 (1740) 春秋	117	65	30	25	宝暦元年 (1752) 春秋	152	80	40	28	4
	118*	65	27	25		153	81	39	29	4
	118	64	27	27		155	82	37	30	4
	118	66	25	27		155	90	31	30	4
	119	72	23	24		155	82	39	30	4
	118	66	25	24		153	86	33	30	4
	119	69	30	25		154	85	35	30	4
	124	68	33	24		156	85	37	30	4
	125	80	22	26		154	85	35	30	4
	128	70	30	24		155	86	35	30	4
	124	65	34	25		163	88	41	30	4
	123	63	35	25		155	88	35	30	4
	117	55	37	25		155	87	35	29	4

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
宝曆 3年 (1753)	158	89	36	29	4	明和 3年 (1766)	161	88	41	30	2
宝曆 4年 (1754)	153	83	37	29	4	明和 4年 (1767)	176	97	45	32	2
宝曆 5年 (1755)	150	82	38	26	4	明和 5年 (1768)	185	99	52	32	2
宝曆 6年 (1756)	151	86	34	27	4	明和 6年 (1769)	178	97	48	31	2
宝曆 7年 (1757)	150	83	38	26	3	明和 7年 (1770)	178	94	53	29	2
宝曆 8年 (1758)	148	83	34	27	4	明和 8年 (1771)	172	92	49	29	2
宝曆 9年 (1759)	152	83	39	27	3	安永元年 (1772)	177	97	49	29	2
宝曆 10年 (1760)	147	82	35	27	3	安永 2年 (1773)	177	99	46	30	2
宝曆 11年 (1761)	145	86	29	27	3	安永 3年 (1774)	180	102	46	31	1
宝曆 12年 (1762)	149	84	34	28	3	安永 4年 (1775)	182	104	45	32	1
宝曆 13年 (1763)	148	83	35	27	3	安永 5年 (1776)	183	100	50	32	1
宝曆 14年 (1764)	150	83	36	28	3	安永 6年 (1777)	177	102	43	31	1
明和 1年 (1765)	148	85	35	28	3	安永 7年 (1778)	179	102	46	30	1
明和 2年 (1766)	151	85	35	28	3		179	106	50	34	2
春秋	146	82	33	27	4		192	110	51	33	3
春秋	152	80	41	28	4		197	110	51	33	3
春秋	153	83	38	29	3		190	108	46	34	2
春秋	152	80	40	29	3		182	104	47	29	2
春秋	151	87	32	29	3		188	102	47	32	2
春秋	151	81	39	30	1		179	103	44	30	2
春秋	158	87	37	32	2		176*	101	43	30	2
春秋	153	84	37	30	2		180	-	-	-	12 (←?)
春秋	154	87	36	29	2		182	102	48	30	2
春秋	154	86	37	29	2		181	101	46	32	2
春秋	151	83	37	29	2		182	103	46	30	3
春秋	152	85	36	29	2		184	103	48	30	3
春秋	156	86	38	30	2		184	112	37	32	3

(按起) 家人總之(由一) 圖總

第4-1表 (続き)

年 季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年 季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
安永 8年 (1779)	181	103	45	31	2	寛政 3年 (1791)	167	90	43	30	4
安永 9年 (1780)	180	103	44	31	2	寛政 4年 (1792)	165	90	43	28	4
天明元年 (1781)	187	109	46	30	2	寛政 5年 (1793)	171	88	49	31	3
天明 2年 (1782)	177	103	44	28	2	寛政 6年 (1794)	163	84	46	29	4
天明 3年 (1783)	185	109	44	30	2	寛政 7年 (1795)	162	85	46	27	4
天明 4年 (1784)	183	103	47	30	2	寛政 8年 (1796)	159	87	42	26	4
天明 5年 (1785)	190	106	50	31	3	寛政 9年 (1797)	161	88	44	25	4
天明 6年 (1786)	181	99	46	33	3	寛政 10年 (1798)	163	93	42	24	4
天明 7年 (1787)	195	101	57	33	3	寛政 11年 (1799)	162	90	42	27	3
天明 8年 (1788)	189	100	51	33	4	寛政 12年 (1800)	163	89	42	29	3
寛政元年 (1789)	191	99	54	33	5	享和元年 (1801)	167	88	43	33	3
寛政 2年 (1790)	189	103	49	34	5	享和 2年 (1802)	163	92	37	31	3
	182	97	49	33	3		164	88	41	32	3
	182	102	44	33	3		164	87	42	32	3
	178	98	46	31	3		169	89	45	32	3
	181	104	44	30	3		172	88	44	32	3
	175	96	46	29	4		168	88	44	33	3
	171	95	40	32	4		174	88	50	32	4
	169	93	41	31	4		168	88	44	32	4
	170	96	43	29	4		164	81	47	32	4
	168	93	41	29	3		163	83	45	31	4
	167	93	41	29	4		163	81	46	32	4
	169	89	45	31	4		163	81	46	32	4
	164	90	41	29	4		161	82	42	32	5

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
享和3年 (1803)	162	人	人	人	人	文化13年 (1816)	164	人	人	人	人
文化元年	156	80	46	31	5	文化14年	158	83	41	32	3
(1804)	149	82	40	30	4	(1817)	160	82	47	32	3
文化2年	150*	78	39	28	4	文政元年	156	78	43	32	3
(1805)	147*	76	41	28	4	(1818)	163	78	50	32	3
文化3年	146	75	48	28	4	文政2年	156	81	40	32	3
(1806)	149	70	43	28	5	(1819)	159	78	46	32	3
文化4年	147	69	47	28	4	文政3年	155	78	41	33	3
(1807)	154	71	44	28	4	(1820)	161	78	46	34	3
文化5年	159	70	52	28	4	文政4年	155	78	40	34	3
(1808)	164	83	43	28	5	(1821)	161	79	46	33	3
文化6年	159	76	50	28	5	文政5年	158	82	44	29	3
(1809)	160	81	47	31	5	(1822)	162	82	47	30	3
文化7年	159	80	47	30	3	文政6年	161	83	44	32	4
(1810)	151	82	45	29	3	(1823)	160	78	47	30	3
文化8年	150*	72	47	28	4	文政7年	158	78	46	32	4
(1811)	153	76	43	28	4	(1824)	156	81	43	30	3
文化9年	152	79	43	27	3	文政8年	157	82	39	33	4
(1812)	153	82	40	28	3	(1825)	160	83	43	30	4
文化10年	154	80	44	27	3	文政9年	162	78	45	34	5
(1813)	158	83	42	30	3	(1826)	158	80	44	30	4
文化11年	158	83	40	32	3	文政10年	160	79	44	32	5
(1814)	160	80	45	32	3	(1827)	156	80	42	30	4
文化12年	165	83	47	32	3	文政11年	158	75	45	32	6
(1815)	162	89	38	32	3	(1828)	159	80	45	30	4

(坂田) 坂田公雄(一田) 田中(一田) 田中

第4-1表 (続き)

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
文政12年 (1829)	160	79	43	32	6	天保12年 (1841)	158	75	43	35	5
天保元年 (1830)	159	81	44	30	4	天保13年 (1842)	157	80	38	35	4
天保2年 (1831)	152	79	42	32	6	天保14年 (1843)	146	67	40	33	6
天保3年 (1832)	162	78	39	30	4	天保元年 (1844)	150	69	41	34	6
天保4年 (1833)	159	82	46	32	6	弘化元年 (1845)	149	66	43	34	6
天保5年 (1834)	162	81	43	32	4	弘化2年 (1846)	154	71	43	34	6
天保6年 (1835)	160	81	44	31	6	弘化3年 (1847)	156	70	46	34	6
天保7年 (1836)	158	79	40	33	4	弘化4年 (1848)	158	72	46	34	6
天保8年 (1837)	155	80	44	31	6	嘉永元年 (1849)	157	71	47	34	6
天保9年 (1838)	158	76	40	32	4	嘉永2年 (1850)	159	73	46	34	6
天保10年 (1839)	155	79	40	34	6	嘉永3年 (1851)	157	72	44	34	6
天保11年 (1840)	158	76	42	34	4	嘉永4年 (1852)	157	73	44	34	6
	154	76	40	33	5		159	75	43	34	6
	163	81	41	36	5		159	74	45	34	6
	158	81	41	32	4		156	74	46	34	6
	162	80	43	34	5		144	69	42	32	6
	159	82	39	33	5		129	64	37	30	6
	162	81	44	32	5		122	63	25	30	4
	162	83	40	34	5		120	61	25	30	4
	160	80	40	33	5		120	59	27	30	4
	159	81	40	33	5		125	62	26	33	4
	160	80	40	35	5		125	60	28	33	4
	160	80	41	35	4						

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
嘉永6年 (1853) 春秋	125	60	28	33	4人	文久元年 (1861) 春秋	125	47	40	33	5人
安政元年 (1854) 春秋	125	58	29	33	5人	文久2年 (1862) 春秋	125	47	40	33	5人
安政2年 (1855) 春秋	125	58	30	33	4人	文久3年 (1863) 春秋	125	45	42	33	5人
安政3年 (1856) 春秋	126	54	29	33	5人	元治元年 (1864) 春秋	125	50	37	33	5人
安政4年 (1857) 春秋	126	54	34	33	5人	慶応元年 (1865) 春秋	125	50	37	33	5人
安政5年 (1858) 春秋	126	56	32	33	5人	慶応2年 (1866) 春秋	125	53	33	33	6人
安政6年 (1859) 春秋	113	52	23	33	5人	慶応3年 (1867) 春秋	125	49	37	33	6人
万延元年 (1860) 春秋	113	50	25	33	5人	明治元年 (1868) 春秋	125	52	34	33	6人
	113	53	23	33	4人		125	54	32	33	6人
	114	50	26	33	5人		125	54	32	33	6人
	114	50	26	33	5人		125	54	32	33	6人
	114	50	26	33	5人		125	47	39	33	6人
	114	48	28	33	5人		125	54	32	33	6人
	114	46	30	33	5人		125	52	34	33	6人
	114	46	30	33	5人		80	35	14	25	6人
	116	43	35	33	5人		24	14	22	2人	
	123	45	40	33	5人						

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830～本834), 「江戸向店目録吟味寄」(同 本839, 本840), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851～本866), 「小遣目録」(同 籍 3402-2)。

注) 寛政8年(1796)から慶応3年(1867)までの「惣人数」は「売方」(第4-2表)「仕入方」(第4-3表)の教値を合計したもの。

*は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の欄は「小遣目録」に拠って訂正した。

(原題) 萬入公繼之垣(柳一垣本) 圖録

第4-2表 江戸向店売方の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
寛政 8年 (1796) 春秋	132人	人	人	人	人	文化 5年 (1808) 春秋	121人	人	人	人	人
寛政 9年 (1797) 春秋	125	-	-	-	-	文化 6年 (1809) 春秋	127	48	40	28	5
寛政 10年 (1798) 春秋	129	60	34	32	3	文化 7年 (1810) 春秋	122	54	37	31	5
寛政 11年 (1799) 春秋	126	57	34	32	3	文化 8年 (1811) 春秋	120	52	37	30	3
寛政 12年 (1800) 春秋	130	59	36	32	3	文化 9年 (1812) 春秋	114	53	35	29	3
享和元年 (1801) 春秋	128	58	35	32	3	文化 10年 (1813) 春秋	113	45	37	29	3
享和 2年 (1802) 春秋	132	57	40	32	3	文化 11年 (1814) 春秋	113*	47	34	28	4
享和 3年 (1803) 春秋	128	57	35	33	3	文化 12年 (1815) 春秋	116	45	37	28	4
文化元年 (1804) 春秋	128	57	35	32	3	文化 13年 (1816) 春秋	115	49	33	31	3
文化 2年 (1805) 春秋	133	56	41	32	4	文化 14年 (1817) 春秋	116	52	33	27	3
文化 3年 (1806) 春秋	128	57	35	32	4	文政元年 (1818) 春秋	117	55	30	28	3
文化 4年 (1807) 春秋	123	49	38	32	4	文政 2年 (1819) 春秋	118	53	34	27	3
	124	53	36	31	4		121	56	32	30	3
	123	50	37	32	4		121	56	30	32	3
	122	52	38	32	5		123	53	35	32	3
	122	49	37	31	5		128	56	37	32	3
	117	52	31	30	4		125	62	28	32	3
	110	48	30	28	4		127	56	36	32	3
	112*	48	31	28	4		121	55	31	32	3
	117	47	38	28	4		123	51	37	32	3
	109	43	33	28	5		119	51	33	32	3
	112	42	37	28	5		126	51	40	32	3
	110	44	34	28	4		119	54	30	32	3
	117	43	42	28	4		122	51	36	32	3
	122	56	33	28	5		118	51	31	33	3

年季	人数	手代	子供	下男	定詰	年季	人数	手代	子供	下男	定詰
文政 3 年 (1820)	124	51	36	34	3	天保 4 年 (1833)	121	52	30	33	6
文政 4 年 (1821)	118	51	30	34	3	春秋 4 年 (1833)	118	53	30	31	4
文政 5 年 (1822)	124	52	36	33	3	天保 5 年 (1834)	121	49	34	32	6
文政 6 年 (1823)	121	55	34	29	3	天保 6 年 (1835)	118	52	30	32	4
文政 7 年 (1824)	125	55	37	30	3	天保 7 年 (1836)	121	49	32	34	6
文政 8 年 (1825)	124	56	34	30	4	天保 8 年 (1837)	117	49	30	33	5
文政 9 年 (1826)	123	51	37	32	4	天保 9 年 (1838)	126	54	31	36	5
文政 10 年 (1827)	121	51	36	30	3	天保 10 年 (1839)	121	55	31	32	4
文政 11 年 (1828)	119	54	33	32	4	天保 11 年 (1840)	125	53	33	34	5
文政 12 年 (1829)	120	55	29	30	3	天保 12 年 (1841)	122	55	29	33	5
天保元年 (1830)	123	56	33	33	4	天保 13 年 (1842)	125	54	34	32	5
天保 2 年 (1831)	125	51	35	34	5	天保 14 年 (1843)	123	56	30	35	5
天保 3 年 (1832)	121	53	34	30	4	弘化元年 (1844)	122	54	30	33	5
	123	48	35	32	4	弘化 2 年 (1845)	123	53	31	35	5
	119	53	32	30	4		121	48	33	35	4
	122	52	34	32	4		120	53	28	33	5
	122	54	33	30	4		109	40	30	35	4
	122	52	34	32	4		113	42	31	34	6
	115	52	29	30	4		112	39	33	34	6
	125	51	36	32	4		117	44	33	34	6
	122	55	33	30	4		119	43	36	34	6
	125	54	33	32	4		121	45	36	34	6
	123	54	34	31	4		121	44	37	34	6

(原記) 人数公辦之理 (第一回本) 圖表題

第4-2表 (続き)

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
弘化3年 (1846) 春秋	120 人	46 人	34 人	34 人	6 人	安政4年 (1857) 春秋	72 人	23 人	12 人	33 人	4 人
弘化4年 (1847) 春秋	120	46	34	34	6	安政5年 (1858) 春秋	73	19	16	33	5
嘉永元年 (1848) 春秋	120	45	35	34	6	安政6年 (1859) 春秋	73	20	15	33	5
嘉永2年 (1849) 春秋	122	47	33	34	6	万延元年 (1860) 春秋	73	18	17	33	5
嘉永3年 (1850) 春秋	122	48	34	34	6	文久元年 (1861) 春秋	74	16	19	33	5
嘉永4年 (1851) 春秋	119	46	36	34	6	文久2年 (1862) 春秋	78	16	19	33	5
嘉永5年 (1852) 春秋	92	47	32	34	6	文久3年 (1863) 春秋	13	13	23	33	5
嘉永6年 (1853) 春秋	83	32	22	32	6	元治元年 (1864) 春秋	15	16	26	33	5
嘉永7年 (1854) 春秋	83	31	17	30	5	慶応元年 (1865) 春秋	15	27	27	33	5
嘉永8年 (1855) 春秋	78	31	13	30	4	慶応2年 (1866) 春秋	80	15	26	33	5
安政元年 (1854) 春秋	77	30	13	30	4	慶応3年 (1867) 春秋	80	18	24	33	5
安政2年 (1855) 春秋	77	28	15	30	4		80	18	24	33	5
安政3年 (1856) 春秋	82	31	14	33	4		80	21	24	33	6
	80	28	15	33	4		80	21	24	33	6
	80	29	14	33	4		80	17	24	33	6
	80	24	18	33	5		80	20	21	33	6
	80	24	16	33	4		80	20	20	33	6
	80	27	16	33	5		80	22	19	33	6
	81	26	16	33	5		80	22	19	33	6
	81	23	20	33	5		80	22	19	33	6
	81	24	19	33	5		80	17	24	33	6
	72	22	12	33	5		80	17	24	33	6
	72	22	12	33	5		80	17	24	33	6
	20	14	14	33	5		80	19	19	33	6

出所) 「本店」一巻目録改帳J(三井文庫所蔵史料 本832~本834), 「江戸向店目録吟味寄J(同 本839, 本840), 「店々目録吟味寄J(同 本851~本866), 「小遣目録J(同 続3402-2~)。

注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の粗鱈は「小遣目録Jに拠って訂正した。

第4-3表 江戸向店仕入方の奉公人数

年季	江戸向店仕入方の奉公人数	手代	子供	年季	江戸向店仕入方の奉公人数	手代	子供
寛政8年 (1796) 春秋	35人	-	-	文化5年 (1808) 春秋	38人	28	10
寛政9年 (1797) 春秋	35	28	7	文化6年 (1809) 春秋	37	27	10
寛政10年 (1798) 春秋	38	30	8	文化7年 (1810) 春秋	38	28	10
寛政11年 (1799) 春秋	39	30	9	文化8年 (1811) 春秋	39	29	10
寛政12年 (1800) 春秋	39	31	9	文化9年 (1812) 春秋	37	27	10
享和元年 (1801) 春秋	40	31	9	文化10年 (1813) 春秋	37	27	10
享和2年 (1802) 春秋	41	32	9	文化11年 (1814) 春秋	37	27	10
享和3年 (1803) 春秋	39	30	9	文化12年 (1815) 春秋	37	27	10
文化元年 (1804) 春秋	40	31	9	文化13年 (1816) 春秋	37	27	10
文化2年 (1805) 春秋	39	30	9	文化14年 (1817) 春秋	37	27	10
文化3年 (1806) 春秋	38	28	10	文政元年 (1818) 春秋	37	27	10
文化4年 (1807) 春秋	30*	27	10	文政2年 (1819) 春秋	37	27	10
	37	27	10		37	27	10

(原簿) 江戸向店仕入方の奉公人数 (第一冊) 圖後録

第4-3表 (続き)

年 季	惣人数	手代	子供	年 季	惣人数	手代	子供
文政 3年 (1820)	37	人	10	天保 4年 (1833)	37	人	10
文政 4年 (1821)	37	人	10	天保 5年 (1834)	37	人	10
文政 5年 (1822)	37	人	10	天保 6年 (1835)	37	人	10
文政 6年 (1823)	37	人	10	天保 7年 (1836)	37	人	10
文政 7年 (1824)	37	人	10	天保 8年 (1837)	37	人	10
文政 8年 (1825)	37	人	10	天保 9年 (1838)	37	人	10
文政 9年 (1826)	37	人	10	天保 10年 (1839)	37	人	10
文政 10年 (1827)	37	人	10	天保 11年 (1840)	37	人	10
文政 11年 (1828)	37	人	10	天保 12年 (1841)	37	人	10
文政 12年 (1829)	37	人	10	天保 13年 (1842)	37	人	10
天保元年 (1830)	37	人	10	天保 14年 (1843)	37	人	10
天保 2年 (1831)	37	人	10	弘化元年 (1844)	37	人	10
天保 3年 (1832)	37	人	10	弘化 2年 (1845)	37	人	10

年季	惣人数	手代	子供	年季	惣人数	手代	子供
弘化 3年 (1846) 春秋	37 人	27	10	安政 4年 (1857) 春秋	41	30	11
弘化 4年 (1847) 春秋	37	27	10	安政 5年 (1858) 春秋	41	31	10
嘉永元年 (1848) 春秋	37	27	10	安政 6年 (1859) 春秋	41	30	11
嘉永 2年 (1849) 春秋	37	27	10	万延元年 (1860) 春秋	42	30	11
嘉永 3年 (1850) 春秋	52	37	15	文久元年 (1861) 春秋	44	-	-
嘉永 4年 (1851) 春秋	46	33	13	文久 2年 (1862) 春秋	45	31	14
嘉永 5年 (1852) 春秋	44	32	12	文久 3年 (1863) 春秋	45	-	-
嘉永 6年 (1853) 春秋	43	31	12	元治元年 (1864) 春秋	45	30	15
安政元年 (1854) 春秋	43	31	12	慶応元年 (1865) 春秋	45	32	13
安政 2年 (1855) 春秋	43	31	12	慶応 2年 (1866) 春秋	45	32	13
安政 3年 (1856) 春秋	45	31	14	慶応 3年 (1867) 春秋	45	30	15
	41	30	11		45	32	13

(左記) 嫁入公衆之世 (柳十哲) 圖録

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本832~本834)、「江戸向店目録吟味寄」(同 本839、本840)、「店々惣目録吟味寄」(同 本851~本866)、「小遣目録」(同 続3402-2~)。

(注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の翻端は「小遣目録」にて揃って訂正した。

第5表 江戸本町一丁目店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
享保14年 (1729) 春秋	73 人	-	-	-	寛保元年 (1741) 春秋	90 人	41 人	26 人	23 人	-
享保15年 (1730) 春秋	73 人	-	-	-	寛保2年 (1742) 春秋	88 人	47 人	25 人	16 人	-
享保16年 (1731) 春秋	77 人	-	-	-	寛保3年 (1743) 春秋	89 人	43 人	24 人	16 人	6
享保17年 (1732) 春秋	75 人	-	-	-	延享元年 (1744) 春秋	92 人	46 人	23 人	17 人	6
享保18年 (1733) 春秋	70 人	-	-	-	延享2年 (1745) 春秋	88 人	48 人	19 人	15 人	6
享保19年 (1734) 春秋	68 人	-	-	-	延享3年 (1746) 春秋	97 人	50 人	24 人	17 人	6
享保20年 (1735) 春秋	70 人	-	-	-	延享4年 (1747) 春秋	90 人	45 人	21 人	18 人	6
元文元年 (1736) 春秋	71 人	-	-	-	寛延元年 (1748) 春秋	96 人	47 人	25 人	18 人	6
元文2年 (1737) 春秋	73 人	39	19	15	寛延2年 (1749) 春秋	97 人	51 人	19 人	19 人	8
元文3年 (1738) 春秋	73 人	41	17	15	寛延3年 (1750) 春秋	99 人	50 人	22 人	19 人	8
元文4年 (1739) 春秋	75 人	42	18	15	宝暦元年 (1751) 春秋	108 人	52 人	27 人	23 人	8
元文5年 (1740) 春秋	75 人	41	19	15	宝暦2年 (1752) 春秋	106 人	52 人	24 人	22 人	8
	75 人	41	19	15		102 人	50 人	22 人	22 人	8
	74 人	41	18	15		104 人	51 人	23 人	22 人	8
	74 人	41	18	15		104 人	51 人	23 人	22 人	8
	74 人	39	20	15		104 人	54 人	21 人	21 人	8
	72 人	38	20	14		102 人	50 人	24 人	20 人	8
	71 人	39	19	13		102 人	52 人	23 人	19 人	8
	70 人	37	20	13		102 人	52 人	21 人	21 人	8
	72 人	37	21	14		102 人	52 人	22 人	20 人	8
	70 人	37	17	16		102 人	50 人	23 人	21 人	8
	75 人	40	20	15		101 人	49 人	23 人	21 人	8
	77 人	41	21	15		98 人	51 人	20 人	19 人	8
	80 人	42	23	15		95 人	51 人	20 人	19 人	8
	78 人	40	22	16						5

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
宝暦3年 春秋	92	47	19	21	5	宝暦10年 春秋	93	46	22	20	5
(1753)	95	48	21	21	5	(1760)	92	47	20	20	5
宝暦4年 春秋	90	46	19	20	5	宝暦11年 春秋	97	48	22	21	6
(1754)	91	45	21	20	5	(1761)	95	48	21	21	5
宝暦5年 春秋	94	48	21	20	5	宝暦12年 春秋	91	44	22	20	5
(1755)	94	47	22	20	5	(1762)	93	48	20	20	5
宝暦6年 春秋	95	49	21	20	5	宝暦13年 春秋	98	48	23	22	5
(1756)	94	48	21	20	5	(1763)	97	50	21	21	5
宝暦7年 春秋	98	51	23	19	5	明和元年 春秋	97	49	23	20	5
(1757)	100	51	21	23	5	(1764)	99	51	22	21	5
宝暦8年 春秋	103	51	24	23	5	明和2年 春秋	92	45	22	20	5
(1758)	105	52	25	23	5	(1765)	92	45	22	20	5
宝暦9年 春秋	103	52	25	21	5	明和3年 春秋	96	49	22	20	5
(1759)	104	55	23	21	5	(1766)	103	56	16	26	5

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830~本834)、「江戸芝口店目録吟味寄」(同 本841,本842)、「店々惣目録吟味寄」(同 本851,本856), 「小遣方目録」(同 続3404-1~)。

注) *は「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数が合わないことを示す。文政元年(1818)以降の欄には「小遣方目録」に拠って訂正した。

第6表 江戸芝口店の奉公人数

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰
明和 4年 (1767)	193	96	57	35	5	安永 9年 (1780)	185	86	53	38	8
明和 5年 (1768)	209	94	64	45	6	天明元年 (1781)	195	86	58	43	8
明和 6年 (1769)	202	88	68	47	6	天明 2年 (1782)	194	88	59	39	8
明和 7年 (1770)	193	88	64	45	5	天明 3年 (1783)	201	86	64	43	8
明和 8年 (1771)	201	91	60	46	5	天明 4年 (1784)	210	93	66	43	8
安永元年 (1772)	191	89	55	45	4	天明 5年 (1785)	215	101	61	40	8
安永 2年 (1773)	196	96	55	46	4	天明 6年 (1786)	217	99	68	41	7
安永 3年 (1774)	192	89	53	46	3	天明 7年 (1787)	213	99	66	45	7
安永 4年 (1775)	190	91	52	46	3	天明 8年 (1788)	206	97	66	43	7
安永 5年 (1776)	196	90	57	46	3	寛政元年 (1789)	204	102	52	45	7
安永 6年 (1777)	192	91	56	46	3	寛政 2年 (1790)	208	93	44	61	6
安永 7年 (1778)	196	95	57	46	3	寛政 3年 (1791)	198	98	56	43	6
安永 8年 (1779)	205	98	61	50	3	寛政 4年 (1792)	192	94	61	42	6
	215	95	61	45	3		185	95	49	42	6
	205	96	55	47	3		189	88	51	40	6
	200	97	52	44	3		192	95	49	40	6
	199	98	54	44	3		181	88	48	40	6
	195	94	52	46	3		177	85	46	40	6
	195	98	50	44	3		172	78	48	40	6
	200	92	53	46	3		173	82	46	40	6
	207	95	54	49	9		164	78	42	39	5
	206	96	56	45	9		164	82	38	39	5
	203	96	54	44	9		164	77	43	39	5
	204	93	59	43	9		160	74	39	39	5
	206	95	59	44	8		160	74	42	39	5
	204	95	58	43	8		158	76	38	39	5

年季	總人數	手代	子供	下男	定詰	年季	總人數	手代	子供	下男	定詰
寬政 5 年 (1793)	162*	74	42	39	5	文化 3 年 (1806)	135	63	34	32	6
寬政 6 年 (1794)	163	77	43	38	5	春秋 (1807)	135	61	33	35	6
寬政 7 年 (1795)	165	79	44	39	5	文化 4 年 (1807)	135	63	35	32	5
寬政 8 年 (1796)	166	75	43	38	5	文化 5 年 (1808)	135	62	36	32	5
寬政 9 年 (1797)	161	75	43	39	5	文化 6 年 (1809)	136	62	35	34	5
寬政 10 年 (1798)	162	77	42	37	5	文化 7 年 (1810)	136	62	36	34	5
寬政 11 年 (1799)	162	77	43	38	5	文化 8 年 (1811)	135	63	35	33	5
寬政 12 年 (1800)	161	76	42	38	5	文化 9 年 (1812)	136	62	36	32	5
享和元年 (1801)	162	77	42	38	5	文化 10 年 (1813)	135	63	36	31	5
享和 2 年 (1802)	161	77	42	38	5	文化 11 年 (1814)	135	61	37	32	5
享和 3 年 (1803)	161	76	42	38	5	文化 12 年 (1815)	135	61	37	32	5
文化元年 (1804)	163	79	41	37	5	文化 13 年 (1816)	135	61	38	32	4
文化 2 年 (1805)	160	77	41	37	5	文化 14 年 (1817)	134	61	38	30	2
	163	74	40	36	5	文政元年 (1818)	130	60	38	30	2
	149	71	39	31	5						
	139	67	36	32	5						
	139	65	37	31	5						
	137	64	37	31	5						

(西) 公 人 華 臣 一 出 本 圖 後 製

第6表 (続吉)

		惣人数	手代	子供	下男	定詰			惣人数	手代	子供	下男	定詰
		人	人	人	人	人			人	人	人	人	人
文政 2年 (1819)	春秋	130	60	38	30	2	天保 3年 (1832)	春秋	142	64	42	34	2
文政 3年 (1820)	春秋	130	60	38	30	2	天保 4年 (1833)	春秋	145	64	44	35	2
文政 4年 (1821)	春秋	130	60	38	30	2	天保 5年 (1834)	春秋	145	64	44	35	2
文政 5年 (1822)	春秋	130	60	38	30	2	天保 6年 (1835)	春秋	145	64	44	35	2
文政 6年 (1823)	春秋	129	60	37	30	2	天保 7年 (1836)	春秋	142	64	42	34	2
文政 7年 (1824)	春秋	129	60	37	30	2	天保 8年 (1837)	春秋	140	62	42	34	2
文政 8年 (1825)	春秋	130	60	36	30	2	天保 9年 (1838)	春秋	140	62	42	35	2
文政 9年 (1826)	春秋	130	60	36	32	2	天保 10年 (1839)	春秋	142	62	42	35	2
文政 10年 (1827)	春秋	129	60	36	31	2	天保 11年 (1840)	春秋	142	62	43	35	2
文政 11年 (1828)	春秋	132	61	36	32	2	天保 12年 (1841)	春秋	142	63	42	35	2
文政 12年 (1829)	春秋	134	62	37	33	2	天保 13年 (1842)	春秋	143	64	42	35	2
天保元年 (1830)	春秋	136	62	38	34	2	天保 14年 (1843)	春秋	139	62	40	35	2
天保 2年 (1831)	春秋	134	62	35	34	2	弘化元年 (1844)	春秋	137	64	37	34	2
		135	62	38	32	2			139	67	36	34	2
				37	34	2			139	66	37		2

年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	年季	惣人数	手代	子供	下男	定詰	定日勤
弘化 2 年 (1845) 春秋	139 人	66 人	37 人	34 人	2 人	安政 4 年 (1857) 春秋	90 人	48 人	18 人	23 人	1 人	-
弘化 3 年 (1846) 春秋	139	66	37	34	2	安政 5 年 (1858) 春秋	82	39	17	25	1	-
弘化 4 年 (1847) 春秋	139	66	37	34	2	安政 6 年 (1859) 春秋	80	37	17	25	1	-
嘉永 元年 (1848) 春秋	139	66	37	34	2	万延元年 (1860) 春秋	82	37	19	25	1	-
嘉永 2 年 (1849) 春秋	139	66	37	34	2	文久元年 (1861) 春秋	82	35	21	25	1	-
嘉永 3 年 (1850) 春秋	132	65	33	32	2	文久 2 年 (1862) 春秋	92	37	26	26	1	7
嘉永 4 年 (1851) 春秋	122	61	29	30	2	文久 3 年 (1863) 春秋	90	32	25	25	1	7
嘉永 5 年 (1852) 春秋	122	61	29	30	2	元治元年 (1864) 春秋	92	32	26	26	1	7
嘉永 6 年 (1853) 春秋	122	61	29	30	2	慶応元年 (1865) 春秋	92	32	26	26	1	7
安政元年 (1854) 春秋	122	61	29	30	2	慶応 2 年 (1866) 春秋	92	32	26	26	1	7
安政 2 年 (1855) 春秋	120	60	29	30	2	慶応 3 年 (1867) 春秋	92	32	26	26	1	7
安政 3 年 (1856) 春秋	95	50	23	25	2	明治元年 (1868) 春秋	86	32	25	23	1	5
	90	48	18	23	1		47	18	13	13	1	2

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830～本834)、「上之店目録吟味寄」(同 本849, 850), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851～本868), 「目録」(同 本2026-19, 続 3405-~)。

注) 「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数の欄には「目録」に拠って訂正した。

(弘化) 惣人数(兼一冊) 本一冊

第7表 京上之店奉公人数

年 季	惣人数	手代	子供	下男	雇 人	年 季	惣人数	手代	子供	下男
宝永 7年 (1710)	—	—	—	—	—	元文 4年 (1739)	27	—	—	—
正徳元年 (1711)	8	—	—	—	—	元文 5年 (1740)	26	13	9	4
享保 14年 (1729)	11	8	2	1	—	—	14	9	9	4
享保 15年 (1730)	9	6	2	1	—	—	15	9	9	4
享保 16年 (1731)	—	—	—	—	—	—	15	9	9	4
享保 17年 (1732)	18	—	—	—	—	—	15	9	—	—
享保 18年 (1733)	22	—	—	—	—	—	—	16	9	4
享保 19年 (1734)	20	—	—	—	—	—	18	10	10	4
享保 20年 (1735)	21	—	—	—	—	—	18	10	10	4
元文元年 (1736)	22	—	—	—	—	—	17	10	10	4
元文 2年 (1737)	22	—	—	—	—	—	18	10	9	4
元文 3年 (1738)	22	—	—	—	—	—	18	10	9	4
	22	—	—	—	—	—	17	17	10	4
	22	—	—	—	—	—	17	17	9	4
	23	13	7	3	—	—	30	17	10	4
	23	13	7	3	—	—	31	17	9	4
	24	14	7	3	—	—	27	14	11	4
	24	13	7	4	—	—	30	15	11	4
	23	12	8	3	—	—	30	15	11	4
	24	13	7	4	—	—	30	15	10	4
	24	14	7	4	—	—	31	17	11	4
	24	13	6	4	—	—	30	15	10	4
	24	13	7	4	—	—	30	16	11	4
	24	13	7	4	—	—	30	15	11	4
	26	14	8	4	—	—	30	17	11	4

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男
宝暦元年 (1751) 春秋	30	17	9	4	明和元年 (1764) 春秋	32	18	10	4
宝暦2年 (1752) 春秋	30	16	10	4	明和2年 (1765) 春秋	33	18	10	4
宝暦3年 (1753) 春秋	30	18	8	4	明和3年 (1766) 春秋	32	18	10	4
宝暦4年 (1754) 春秋	29	18	8	4	明和4年 (1767) 春秋	35	20	11	4
宝暦5年 (1755) 春秋	30	17	8	4	明和5年 (1768) 春秋	37	21	11	4
宝暦6年 (1756) 春秋	31	18	9	4	明和6年 (1769) 春秋	36	22	10	4
宝暦7年 (1757) 春秋	32	16	11	5	明和7年 (1770) 春秋	37	22	11	4
宝暦8年 (1758) 春秋	32	16	11	5	明和8年 (1771) 春秋	36	22	10	4
宝暦9年 (1759) 春秋	31	18	9	4	安永元年 (1772) 春秋	37	22	10	4
宝暦10年 (1760) 春秋	32	19	9	4	安永2年 (1773) 春秋	35	20	9	4
宝暦11年 (1761) 春秋	34	17	11	4	安永3年 (1774) 春秋	34	20	10	4
宝暦12年 (1762) 春秋	33	18	12	4	安永4年 (1775) 春秋	35	22	10	4
宝暦13年 (1763) 春秋	32	19	9	4	安永5年 (1776) 春秋	38	24	10	4
	32	19	9	4		35	22	9	4

(西) 家人總數(由一戶) 總數

第7表 (続き)

年 季	惣人数	手代 人	子供 人	下男 人	年 季	惣人数 人	手代 人	子供 人	下男 人
安永 6年 (1777) 春秋	34	-	-	-	寛政元年 (1789) 春秋	33	19	10	4
安永 7年 (1778) 春秋	34	20	10	4	寛政 2年 (1790) 春秋	34	20	9	4
安永 8年 (1779) 春秋	35	-	-	-	寛政 3年 (1791) 春秋	33	21	10	4
安永 9年 (1780) 春秋	34	-	-	-	寛政 4年 (1792) 春秋	32	20	8	4
天明元年 (1781) 春秋	35	20	10	4	寛政 5年 (1793) 春秋	33	21	8	4
天明 2年 (1782) 春秋	35	-	-	-	寛政 6年 (1794) 春秋	32	20	9	4
天明 3年 (1783) 春秋	36	23	9	4	寛政 7年 (1795) 春秋	31	19	9	4
天明 4年 (1784) 春秋	35	22	9	4	寛政 8年 (1796) 春秋	31	17	10	4
天明 5年 (1785) 春秋	36	23	8	4	寛政 9年 (1797) 春秋	32	18	9	4
天明 6年 (1786) 春秋	33	21	11	4	寛政10年 (1798) 春秋	31	18	10	4
天明 7年 (1787) 春秋	31	21	10	4	寛政11年 (1799) 春秋	31	18	10	4
天明 8年 (1788) 春秋	32	19	9	4	寛政12年 (1800) 春秋	31	17	10	4

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男
享和元年 (1801)年	31人	17人	10人	4人	文化11年 (1814)年	28人	16人	8人	4人
享和2年 (1802)年	30人	17人	9人	4人	文化12年 (1815)年	29人	16人	9人	4人
享和3年 (1803)年	29人	18人	7人	4人	文化13年 (1816)年	30人	16人	10人	4人
文化元年 (1804)年	30人	17人	9人	4人	文化14年 (1817)年	29人	15人	10人	4人
文化2年 (1805)年	30人	17人	9人	4人	文政元年 (1818)年	30人	17人	8人	4人
文化3年 (1806)年	30人	16人	10人	4人	文政2年 (1819)年	30人	17人	9人	4人
文化4年 (1807)年	30人	16人	10人	4人	文政3年 (1820)年	30人	16人	10人	4人
文化5年 (1808)年	31人	16人	11人	4人	文政4年 (1821)年	31人	18人	9人	4人
文化6年 (1809)年	29人	18人	9人	4人	文政5年 (1822)年	30人	18人	8人	4人
文化7年 (1810)年	28人	15人	10人	4人	文政6年 (1823)年	29人	20人	7人	4人
文化8年 (1811)年	29人	14人	10人	4人	文政7年 (1824)年	28人	18人	6人	4人
文化9年 (1812)年	30人	15人	10人	4人	文政8年 (1825)年	29人	19人	7人	4人
文化10年 (1813)年	29人	16人	9人	4人	文政9年 (1826)年	29人	19人	6人	4人
春秋	28人	16人	8人	4人	春秋	25人	15人	6人	4人

(左) 惣人数 (右) 惣人数 (左) 惣人数 (右) 惣人数

第7表 (続き)

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男
文政10年 (1827)	27	15	8	4	天保10年 (1839)	28	16	8	4
文政11年 (1828)	26	16	6	4	天保11年 (1840)	29	16	9	4
文政12年 (1829)	29	17	8	4	天保12年 (1841)	30	15	10	4
天保元年 (1830)	30	17	9	4	天保13年 (1842)	29	15	11	4
天保2年 (1831)	29	16	9	4	天保14年 (1843)	27	16	9	4
天保3年 (1832)	30	15	10	4	弘化元年 (1844)	28	15	8	4
天保4年 (1833)	31	17	9	4	弘化2年 (1845)	27	14	9	4
天保5年 (1834)	32	18	9	5	弘化3年 (1846)	28	15	9	4
天保6年 (1835)	28	18	10	5	弘化4年 (1847)	27	15	8	4
天保7年 (1836)	30	15	11	4	嘉永元年 (1848)	28	16	8	4
天保8年 (1837)	29	16	10	4	嘉永2年 (1849)	29	16	9	4
天保9年 (1838)	28	15	9	4	嘉永3年 (1850)	26	17	7	4
	28	16	8	4		27	15	9	4
	29	16	8	4		28	14	10	4
	29	15	10	4		28	15	9	4

年季	惣人数	手代	子供	下男	年季	惣人数	手代	子供	下男
嘉永 4年 春	28	15	9	4	文久 2年 春	23	11	9	3
(1851) 秋	28	16	8	4	(1862) 秋	22	11	8	3
嘉永 5年 春	27	15	8	4	文久 3年 春	22	12	7	3
(1852) 秋	27	15	8	4	(1863) 秋	22	11	8	3
嘉永 6年 春	27	14	9	4	元治元年 春	22	11	8	3
(1853) 秋	26	14	8	4	(1864) 秋	22	11	8	3
安政元年 春	27	15	8	4	慶応元年 春	22	12	7	3
(1854) 秋	27	15	8	4	(1865) 秋	22	12	7	3
安政 2年 春	25	14	7	4	慶応 2年 春	20	10	7	3
(1855) 秋	23	14	6	3	(1866) 秋	20	10	7	3
安政 3年 春	22	11	8	3	慶応 3年 春	20	10	7	3
(1856) 秋	22	12	7	3	(1867) 秋	20	11	6	3
安政 4年 春	24	13	8	3	明治元年 春	20	11	6	3
(1857) 秋	24	15	6	3	(1868) 秋	19	11	5	3
安政 5年 春	25	15	7	3	明治 2年 春	18	11	—	—
(1858) 秋	24	15	6	3	(1869) 秋	17	10	4	3
安政 6年 春	26	14	9	3	明治 3年 春	13	7	4	2
(1859) 秋	23	13	7	3	(1870) 秋	13	7	4	2
万延元年 春	24	14	7	3	明治 4年 春	13	—	—	—
(1860) 秋	22	12	7	3	(1871) 春	13	—	—	—
文久元年 春	23	12	8	3					
(1861) 秋	23	12	8	3					

出所) 「本店一巻目録改帳」(三井文庫所蔵史料 本830~本834), 「上之店目録吟味寄」(同 本849, 本850), 「店々目録吟味寄」(同 本851~本868), 「目録」(同 本2026-19, 続3405~)。
 注) 「惣人数」と「手代」「子供」以下の合計人数の粗鱈は「目録」に拠って訂正した。

第8表 江戸糸見世の奉公人数

年 季	手代	子供	下男	合計	年 季	手代	子供	下男	合計
天明元年 (1781)	13	10	2	25	寛政5年 (1793)	17	9	2	28
天明2年 (1782)	12	7	2	21	寛政6年 (1794)	17	9	2	28
天明3年 (1783)	11	7	2	20	寛政7年 (1795)	18	8	2	28
天明4年 (1784)	12	8	2	22	寛政8年 (1796)	17	7	2	26
天明5年 (1785)	12	8	2	22	寛政9年 (1797)	18	8	2	28
天明6年 (1786)	12	7	2	21	寛政10年 (1798)	19	8	2	29
天明7年 (1787)	12	7	2	22	寛政11年 (1799)	18	8	2	28
天明8年 (1788)	13	7	2	22	寛政12年 (1800)	18	8	2	28
寛政元年 (1789)	13	8	2	23	享和元年 (1801)	18	9	2	29
寛政2年 (1790)	12	8	2	22	享和2年 (1802)	17	9	2	28
寛政3年 (1791)	13	10	2	25	享和3年 (1803)	15	9	2	26
寛政4年 (1792)	14	9	2	25	文化元年 (1804)	14	7	2	23
	16	9	2	27		15	6	2	23
	16	9	2	29		15	7	2	23
	18	9	2	29		15	7	2	23
	16	9	2	27		15	7	2	23
	16	9	2	27		15	7	2	23

年 季	手代	子供	下男	合計	年 季	手代	子供	下男	合計
文化 2年 (1805)	15	7	2	24	文政元年 (1818)	14	8	2	24
文化 3年 (1806)	15	6	2	23	春秋 2年	14	8	2	24
文化 4年 (1807)	14	7	2	23	文政 2年 (1819)	13	8	2	23
文化 5年 (1808)	14	7	2	23	文政 3年 (1820)	14	9	2	25
文化 6年 (1809)	16	6	2	24	文政 4年 (1821)	14	10	2	26
文化 7年 (1810)	17	5	2	24	文政 5年 (1822)	14	10	2	26
文化 8年 (1811)	16	7	2	25	文政 6年 (1823)	14	8	2	26
文化 9年 (1812)	13	7	2	22	文政 7年 (1824)	15	9	2	25
文化 10年 (1813)	15	6	2	23	文政 8年 (1825)	13	8	2	23
文化 11年 (1814)	14	7	2	22	文政 9年 (1826)	14	8	2	24
文化 12年 (1815)	13	7	2	22	文政 10年 (1827)	16	7	2	25
文化 13年 (1816)	13	8	2	23	文政 11年 (1828)	15	9	2	26
文化 14年 (1817)	14	8	2	24	文政 12年 (1829)	15	10	2	27
	14	8	2	24	天保元年 (1830)	16	10	2	27
				24		16	8	2	26

第8表 (続き)

年 季	手代 人	子供 人	下男 人	合計 人	年 季	手代 人	子供 人	下男 人	合計 人
天保 2年 (1831)	16	10	2	28	天保 14年 (1843)	17	9	3	29
天保 3年 (1832)	16	8	2	26	弘化元年 (1844)	17	9	3	29
天保 4年 (1833)	17	9	2	27	弘化 2年 (1845)	18	8	3	29
天保 5年 (1834)	17	8	3	28	弘化 3年 (1846)	19	9	3	31
天保 6年 (1835)	18	7	3	28	弘化 4年 (1847)	19	7	3	29
天保 7年 (1836)	18	7	3	28	嘉永元年 (1848)	16	10	3	29
天保 8年 (1837)	17	7	3	27	嘉永 2年 (1849)	17	8	3	28
天保 9年 (1838)	18	8	3	29	嘉永 3年 (1850)	18	9	3	29
天保 10年 (1839)	17	8	3	28	嘉永 4年 (1851)	17	11	3	29
天保 11年 (1840)	18	9	3	29	嘉永 5年 (1852)	16	10	3	29
天保 12年 (1841)	18	8	3	29	嘉永 6年 (1853)	17	9	3	29
天保 13年 (1842)	16	9	3	28	安政元年 (1854)	16	10	3	29
	16	9	3	28		17	9	3	29

年季	手代	子供	下男	合計	年季	手代	子供	下男	合計
安政 2年 (1855) 春秋	人 20	人 7	人 3	人 30	文久 3年 (1863) 春秋	人 22	人 8	人 3	人 33
安政 3年 (1856) 春秋	人 18	人 9	人 3	人 30	元治元年 (1864) 春秋	人 23	人 7	人 3	人 33
安政 4年 (1857) 春秋	人 17	人 10	人 3	人 30	慶応元年 (1865) 春秋	人 19	人 8	人 3	人 30
安政 5年 (1858) 春秋	人 18	人 9	人 3	人 30	慶応 2年 (1866) 春秋	人 18	人 11	人 3	人 32
安政 6年 (1859) 春秋	人 17	人 10	人 3	人 30	慶応 3年 (1867) 春秋	人 20	人 12	人 3	人 33
万延元年 (1860) 春秋	人 18	人 9	人 3	人 30	明治元年 (1868) 春秋	人 22	人 7	人 3	人 32
文久元年 (1861) 春秋	人 19	人 9	人 3	人 31	明治 2年 (1869) 春秋	人 20	人 9	人 3	人 32
文久 2年 (1862) 春秋	人 18	人 11	人 3	人 32	明治 3年 (1870) 春秋	人 18	人 9	人 3	人 30
	人 19	人 11	人 3	人 33		人 18	人 9	人 3	人 30
	人 22	人 8	人 3	人 33		人 18	人 9	人 3	人 30

出所) 「江戸糸見世目録吟味寄」(三井文庫所蔵史料 本843), 「店々惣目録吟味寄」(同 本851~本867), 江戸糸見世「目録」(同 本2144~本2146, 別554, 別568)。

第9表 京紅店の奉公人数

年季	手代	子供	下男	紅働キ(延人数)	合計	年季	手代	子供	下男	紅働キ(延人数)	合計	
文化10年 (1813)	春秋	13	4	2	4	文政8年 (1825)	春秋	10	2	2	2	16
文化11年 (1814)	春秋	11	5	2	2半	文政9年 (1826)	春秋	10	3	2	1半(221)	16半
文化12年 (1815)	春秋	10	4	2	1	文政10年 (1827)	春秋	10	5	2	4半(711)	18半
文化13年 (1816)	春秋	9	4	2	2半	文政11年 (1828)	春秋	10	5	2	2	21半
文化14年 (1817)	春秋	9	6	2	4	文政12年 (1829)	春秋	12	5	2	5	19
文政元年 (1818)	春秋	9	6	2	4	天保元年 (1830)	春秋	13	5	2	7	20
文政2年 (1819)	春秋	7	6	2	2	天保2年 (1831)	春秋	13	6	2	4	24
文政3年 (1820)	春秋	7	6	2	2	天保3年 (1832)	春秋	12	5	2	5	25
文政4年 (1821)	春秋	10	4	2	半(109)	天保4年 (1833)	春秋	11	5	2	5	27
文政5年 (1822)	春秋	10	5	2	1半(134)	天保5年 (1834)	春秋	12	5	2	3半(587)	24半
文政6年 (1823)	春秋	10	5	2	1(106)	天保6年 (1835)	春秋	13	6	2	3	22
文政7年 (1824)	春秋	8	4	2	1(184)	天保7年 (1836)	春秋	14	5	2	2半(485)	24半
												24
												23半
												23半
												21半
												19
												19
												18
												18
												20

年季	手代	子供	下男	紅働キ	合計	年季	手代	子供	下男	紅働キ	合計
天保 8年 (1837)	8人	6人	2人	4人	20人	嘉永 3年 (1850)	6人	3人	3人	4人	16人
天保 9年 (1838)	7人	6人	2人	5人	20人	嘉永 4年 (1851)	5人	6人	3人	5人	19人
天保 10年 (1839)	8人	6人	2人	2人	18人	嘉永 5年 (1852)	5人	6人	3人	4人	18人
天保 11年 (1840)	8人	6人	2人	4人	20人	嘉永 6年 (1853)	6人	5人	3人	4人	16人
天保 12年 (1841)	11人	7人	2人	4人	25人	安政 元年 (1854)	7人	4人	3人	3人	18人
天保 13年 (1842)	11人	7人	2人	7人	28人	安政 2年 (1855)	8人	5人	3人	3人	19人
天保 14年 (1843)	12人	6人	2人	3人	24人	安政 3年 (1856)	7人	5人	3人	3人	18人
弘化 元年 (1844)	10人	5人	2人	4人	22人	安政 4年 (1857)	8人	5人	3人	4人	20人
弘化 2年 (1845)	11人	4人	2人	3人	20人	安政 5年 (1858)	5人	6人	3人	5人	19人
弘化 3年 (1846)	11人	5人	2人	4人	22人	安政 6年 (1859)	5人	5人	3人	6人	19人
弘化 4年 (1847)	7人	6人	4人	5人	23人	万延元年 (1860)	7人	5人	3人	7人	22人
嘉永 元年 (1848)	8人	7人	4人	5人	24人	文久 元年 (1861)	8人	5人	3人	10人	26人
嘉永 2年 (1849)	9人	6人	3人	5人	24人	文久 2年 (1862)	8人	5人	3人	9人	25人
春秋	11人	6人	3人	6人	26人		9人	4人	3人	8人	24人
春秋	10人	3人	3人	3人	25人		9人	5人	3人	6人	23人
春秋	10人	3人	3人	3人	19人		9人	4人	3人	7人	23人

(左記) 家人之世 (第一世) 圖表

第9表 (続き)

年季	手代	子供	下男	紅働キ	合計	年季	手代	子供	下男	紅働キ	合計
文久3年 (1863) 春秋	人 9	人 5	人 3	人 5	人 22	慶応3年 (1867) 春秋	人 8	人 4	人 3	人 7	人 22
元治元年 (1864) 春秋	人 9	人 5	人 3	人 7	人 24	明治元年 (1868) 春秋	人 8	人 4	人 3	人 7	人 22
慶応元年 (1865) 春秋	人 9	人 6	人 3	人 8	人 26	明治2年 (1869) 春秋	人 7	人 4	人 3	人 5	人 19
慶応2年 (1866) 春秋	人 8	人 5	人 3	人 8	人 24	明治3年 (1870) 春秋	人 7	人 4	人 3	人 4	人 18
	人 8	人 5	人 3	人 7	人 23		人 7	人 4	人 2	人 4	人 17
	人 8	人 4	人 3	人 5	人 20		人 5	人 3	人 2	人 3	人 13

出所) 「店々目録惣吟味寄」(三井文庫所蔵史料 本851~本867)。

第10表 横浜店の奉公人数

年季	手代	子供	下男	定詰	合計	年季	手代	子供	下男	合計
安政6年 (1859) 春秋	人 1	人 1	人 1	人 1	人 4	文久3年 (1863) 春秋	人 8	人 3	人 4	人 15
万延元年 (1860) 春秋	人 20	人 3	人 8	人 1	人 31	元治元年 (1864) 春秋	人 8	人 3	人 4	人 15
文久元年 (1861) 春秋	人 17	人 3	人 6	人 1	人 27	慶応元年 (1865) 春秋	人 7	人 5	人 4	人 16
文久2年 (1862) 春秋	人 12	人 3	人 5	人 1	人 20	慶応2年 (1866) 春秋	人 8	人 4	人 5	人 17
	人 11	人 3	人 4	人 1	人 19		人 10	人 3	人 5	人 19
	人 11	人 3	人 4	人 1	人 19		人 14	人 3	人 5	人 22
	人 8	人 3	人 4	人 1	人 15		人 12	人 5	人 4	人 21
	人 9	人 3	人 4	人 1	人 16		人 11	人 5	人 4	人 20

出所) 「店々目録惣吟味寄」(三井文庫所蔵史料 本864, 本865)。

第11表 勘定場の奉公人数

年季	合計	年季	合計	年季	合計	年季	合計
文政 8年 (1825)	14半	天保 7年 (1836)	13	弘化 4年 (1847)	18	安政 5年 (1858)	13
文政 9年 (1826)	15半	天保 8年 (1837)	15	嘉永元年 (1848)	13	安政 6年 (1859)	14
文政 10年 (1827)	14半	天保 9年 (1838)	19	嘉永 2年 (1849)	15	万延元年 (1860)	12
文政 11年 (1828)	15	天保 10年 (1839)	14	嘉永 3年 (1850)	13	文久元年 (1861)	12
文政 12年 (1829)	15半	天保 11年 (1840)	19	嘉永 4年 (1851)	13	文久 2年 (1862)	13
天保元年 (1830)	14	天保 12年 (1841)	15	嘉永 5年 (1852)	13	文久 3年 (1863)	14
天保 2年 (1831)	14半	天保 13年 (1842)	14	嘉永 6年 (1853)	14	元治元年 (1864)	12
天保 3年 (1832)	18	天保 14年 (1843)	15	安政元年 (1854)	14	慶応元年 (1865)	11
天保 4年 (1833)	13	弘化元年 (1844)	13	安政 2年 (1855)	14	慶応 2年 (1866)	12
天保 5年 (1834)	13	弘化 2年 (1845)	17	安政 3年 (1856)	13	慶応 3年 (1867)	10
天保 6年 (1835)	16	弘化 3年 (1846)	13	安政 4年 (1857)	14	明治元年 (1868)	10
	13		14		15		10

出所) 「店々目録惣吟味寄」(三井文庫所蔵史料 本 857～本 866)。

(図表) 総(分)年々(第一四半)圖表

年	職階	大元	元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上
		元	(同格)	名代	(同格)	名代	(同格)	(同格)	見	配	(同格)	頭	(同格)
天保 3年(1832)					1	1			1	1			
天保 4年(1833)		-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	
天保 5年(1834)		-	-	-	1	1	-	1	1	1	-	-	
天保 6年(1835)		-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	
天保 7年(1836)		-	-	-	1	1	-	1	2	1	-	-	
天保 8年(1837)		-	-	-	2	-	-	1	2	-	-	-	
天保 9年(1838)		-	-	1	-	-	1	-	2	-	-	-	
天保 10年(1839)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	
弘化 4年(1847)		-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
嘉永 元年(1848)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
嘉永 2年(1849)		-	1	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-
嘉永 3年(1850)		-	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	
嘉永 4年(1851)		-	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	
嘉永 5年(1852)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
嘉永 6年(1853)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
安政 元年(1854)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
安政 2年(1855)		-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
安政 3年(1856)		-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
安政 4年(1857)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
安政 5年(1858)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
安政 6年(1859)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
万延 元年(1860)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
文久 元年(1861)		-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-
文久 2年(1862)		-	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	
文久 3年(1863)		-	1	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-
元治 元年(1864)		-	1	-	1	1	-	-	1	-	1	1	-
慶応 元年(1865)		-	1	1	-	1	1	-	-	1	-	1	-
慶応 2年(1866)		-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	-	1
慶応 3年(1867)		-	-	-	1	-	-	1	-	1	1	-	-
明治 元年(1868)		-	-	-	1	-	-	1	-	1	1	-	-

出所)「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本1090~本1099)。

注) 本表の数値は、各年の正月時点の職階ごとの人数を数えたものである。2月以降の付記、抹消は無視した。

第12表 京本店の名目役手代数

年	職階	大元	元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	支	組	役	上										
		元	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)	(同格)									
明和 8年(1771)		-	1	-	-	-	2	-	3	-	1	-	-	-	1	-	3	-	6	-	6	-	8	3
安永 元年(1772)		-	1	-	-	-	2	-	3	-	1	-	-	-	1	-	4	-	5	1	4	-	8	1
安永 2年(1773)		-	1	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	1	5	-	5	1
安永 3年(1774)		-	1	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	1	4	-	6	1
安永 4年(1775)		-	1	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	1	3	-	5	1
文化 3年(1806)		-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	5	-	4	-	8	-
文化 4年(1807)		-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	4	-	6	-	4	-	7	-
文化 5年(1808)		-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	4	-	5	-	4	-	9	-
文化 6年(1809)		-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	4	-	5	-	6	-	6	1
文化 7年(1810)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	4	-	6	-	6	1
文化 8年(1811)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	4	-	4	-	5	-	9	1
文化 9年(1812)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	4	-	4	-	4	1	9	-
文化 10年(1813)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	3	1	4	-	5	1	10	-
文化 11年(1814)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	4	-	5	-	7	1	7	-
文化 12年(1815)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	4	-	3	1	8	1	7	-
文化 13年(1816)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	3	-	4	-	6	1	9	-
文化 14年(1817)		-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	3	-	5	-	4	1	7	1
文政 元年(1818)		-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	3	-	6	-	6	1	6	1
文政 2年(1819)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	3	-	6	-	6	1	6	2
文政 3年(1820)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	4	-	4	-	6	1	7	1
文政 4年(1821)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	4	-	5	-	5	1	6	1
文政 5年(1822)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	4	-	3	-	6	1	7	-
文政 6年(1823)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	3	1	3	-	5	1	9	-
文政 7年(1824)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	3	1	4	-	5	1	10	-
文政 8年(1825)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-	-	3	-	4	-	5	-	10	-
文政 9年(1826)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	3	-	3	-	7	-	6	-
文政 10年(1827)		-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	2	-	-	-	3	-	4	-	7	-	5	1
文政 11年(1828)		-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	2	-	-	-	3	-	5	-	5	-	6	1
文政 12年(1829)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	3	-	5	-	4	-	8	1
天保 元年(1830)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	4	-	5	-	4	1	7	1
天保 2年(1831)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	4	-	4	-	5	1	7	-

年	職階	大元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	連	上
		元格	同格	同格	同格	代格	見格	支格	格	頭格	頭格	格	格
天保 3年(1832)					6								
天保 4年(1833)		- 1	- - -	2	- - -	1	- 1	1	- -				
天保 5年(1834)		- 1	- - -	2	- - -	1	- 1	1	- -				
天保 6年(1835)		- - - -	- - -	2	- - -	1	- 1	1	- -				
天保 7年(1836)		- - - -	- - -	2	- - -	1	- 1	1	- -				
天保 8年(1837)		- - -	1	- - -	1	- 1	- 1	1	- -				
天保 9年(1838)		- - -	1	- - -	1	- 1	- 1	1	- -				
天保 10年(1839)		- - -	1	- - -	1	- 1	- 1	1	- -				
弘化 4年(1847)		- - - - - -	- - - - -	1	- 1	- 2	- - -						
嘉永 元年(1848)		- - - - -	1	- - -	2	- 1	- - -						
嘉永 2年(1849)		- - - - -	1	- 1	- 1	- 1	- - -						
嘉永 3年(1850)		- - - - -	1	- 1	- 1	- 1	- 1	-					
嘉永 4年(1851)		- - - - -	1	- 1	- 1	- 1	- - -						
嘉永 5年(1852)		- - - - -	1	- 2	- - -	1	- - -						
嘉永 6年(1853)		- - - - -	1	- 1	- - -	1	- - -						
安政 元年(1854)		- - - - -	1	- 1	- 1	- - - -							
安政 2年(1855)		- - - - -	1	- 1	- 1	- - -	1	-					
安政 3年(1856)		- - - -	1	1	- - -	1	- -	1	2	-			
安政 4年(1857)		- - - -	1	1	- - -	1	- 1	1	- -				
安政 5年(1858)		- - - -	1	1	- 1	- - -	1	1	- -				
安政 6年(1859)		- - -	1	- 1	- 1	- - -	1	- 1	-				
万延 元年(1860)		- - -	1	- 1	- 1	- - -	1	1	-				
文久 元年(1861)		- - -	1	- 1	- - -	- 1	- 1	1					
文久 2年(1862)		- - -	1	- 1	- - -	1	- - -	1					
文久 3年(1863)		- - -	1	- - -	1	- - -	1	- -					
元治 元年(1864)		- - -	1	- - -	1	- - -	1	- -					
慶応 元年(1865)		- - - - -	- - - - -	1	- 1	- 1	- - -						
慶応 2年(1866)		- - - - -	- - - - -	1	- 1	- 1	- - -						
慶応 3年(1867)		- - - - -	1	- - - - -	- 1	- 1	-						
明治 元年(1868)		- - - - -	1	- - - - -	1	- 1	- -						

出所)「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本1090~本1099)。

注) 本表の数値は、各年の正月時点の職階ごとの人数を数えたものである。2月以降の付記、抹消は無視した。

第13表 江戸本店の名目役手代人数

年	職階	大元	加判	同方	元方	勘定	名同	後同	通勤	同支	支同	組同	役同	連同	上同		
		元	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	
明和 8年(1771)		- 1	- 1	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- 2	- - - - -		4	- 7	- 10	3	8	- 6	
安永 元年(1772)		- 1	- 1	- - - - -	- - - - -	- 2	- - - - -	- 2	- - - - -		4	- 7	- 7	2	8	- 7	
安永 2年(1773)		- 2	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- 3	- - - - -			4	- 9	- 7	2	7	- 11	
安永 3年(1774)		- 1	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- 3	- - - - -			4	- 9	- 7	2	7	- 10	
安永 4年(1775)		- 1	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- 3	- - - - -			4	- 6	- 7	2	7	- 10	
文化 3年(1806)		- 1	- - - - 1	- - - - 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - - - -			5	- 6	1	5	1	5	- 7
文化 4年(1807)		- 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - - - -	- - - - -	- - - - -			5	- 7	- 5	1	6	- 7	
文化 5年(1808)		- 1	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- - - - 1	- - - - -			4	- 6	- 5	1	7	- 7	
文化 6年(1809)		- 1	- - - - -	- - - - -	- 1	- 1	- 1	- - - - -			4	- 5	- 7	- 8	- 9	2	
文化 7年(1810)		- 1	- - - - 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - - - -	- - - - -			3	- 5	- 5	- 6	2	9	
文化 8年(1811)		- 1	- - - - 1	- 1	- - - - 1	- - - - 1	- - - - -	- - - - -			3	- 5	- 5	- 7	2	10	
文化 9年(1812)		- 1	- - - - 1	- 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - - - -			2	1	5	- 6	- 7	3	
文化 10年(1813)		- 1	- - - - 1	- 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - - - -			4	- 6	- 7	- 7	2	9	
文化 11年(1814)		- 1	- - - - 1	- 1	- - - - 2	- - - - -	- - - - -	- - - - -			4	- 6	- 6	- 6	- 9	1	
文化 12年(1815)		- 1	- - - - 1	- 1	- - - - 2	- - - 1	- - - - -	- - - - -			4	- 6	- 6	- 6	- 10	1	
文化 13年(1816)		- 1	- - - - -	- 1	- - - - 2	- - 1	- - - - -	- - - - -			4	- 6	- 7	- 7	- 10	1	
文化 14年(1817)		- 1	- - - - 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1			4	- 5	- 6	- 7	- 10	2	
文政 元年(1818)		- 1	- - - - 1	- - - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1			4	- 5	- 6	- 7	- 9	2	
文政 2年(1819)		- - - 1	- - - 1	- 1	- 1	- - - - 1	- - - - 1	- - - - 1			5	- 5	- 7	- 7	1	8	
文政 3年(1820)		- - - 1	- - - 1	- 1	- 1	- - - 1	- - - 1	- - - 1			3	- 5	- 7	- 8	1	9	
文政 4年(1821)		- - - 1	- - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1	- - 1			4	- 5	1	8	- 4	2	
文政 5年(1822)		- - - 1	- - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1	- - 1			4	- 5	1	5	1	6	
文政 6年(1823)		- - - 1	- - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1	- - 1			4	- 6	- 7	1	6	1	
文政 7年(1824)		- 1	- - - 1	- 1	- - - 1	- - 1	- - 1	- - 1			4	- 6	- 7	1	6	1	
文政 8年(1825)		- 1	- - - 1	- 1	- - - 1	- - 1	- - 1	- - 1			5	- 6	- 8	1	6	- 11	
文政 9年(1826)		- 1	- - - 1	- 1	- 1	- - - 1	- - 1	- - 1			3	- 6	- 7	- 7	- 11	-	
文政 10年(1827)		- 1	- 1	- 1	- - - 1	- 1	- 1	- - 1			4	- 6	- 6	- 8	1	10	
文政 11年(1828)		- - - 1	- 1	- - - 1	- 1	- 1	- - 1	- - 1			4	- 5	- 7	- 7	- 10	1	
文政 12年(1829)		- - - 1	- - - 1	- - - 1	- 1	1	- 1	- 1			4	- 6	- 7	- 6	- 9	1	
天保 元年(1830)		- - - 1	- - - 1	- - - 2	- - 1	- - 1	- - 1	- - 1			4	- 5	- 5	- 6	- 8	1	
天保 2年(1831)		- - - 1	- - - 1	- - - 2	1	- - -	- - -	- - -			4	- 5	- 5	- 7	1	7	

年	職階	大元	元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上				
		元	(同)	名代	(同)	名代	(同)	(同)	見	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)			
		格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格				
天保 3年(1832)		-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-			
天保 4年(1833)		-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-		
天保 5年(1834)		-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-		
天保 6年(1835)		-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-		
天保 7年(1836)		-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-		
天保 8年(1837)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-		
天保 9年(1838)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-		
天保 10年(1839)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-		
弘化 4年(1847)		-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-		
嘉永 元年(1848)		-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-		
嘉永 2年(1849)		-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-		
嘉永 3年(1850)		-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
嘉永 4年(1851)		-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
嘉永 5年(1852)		-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-		
嘉永 6年(1853)		-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-		
安政 元年(1854)		-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
安政 2年(1855)		-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
安政 3年(1856)		-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
安政 4年(1857)		-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
安政 5年(1858)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
安政 6年(1859)		-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	
万延 元年(1860)		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	
文久 元年(1861)		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	
文久 2年(1862)		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	
文久 3年(1863)		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-
元治 元年(1864)		-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
慶応 元年(1865)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
慶応 2年(1866)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
慶応 3年(1867)		-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-
明治 元年(1868)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-

出所) 「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本1090~本1099)。

注) 本表の数値は、各年の正月時点の職階ごとの人数を数えたものである。2月以降の付記、抹消は無視した。

第 14 表 大坂本店の名目役手代人数

年	職階	大元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上
		元	格	格	代	格	格	格	配	頭	頭	座
明和 8 年(1771)		-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
安永 元年(1772)		-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
安永 2 年(1773)		-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
安永 3 年(1774)		-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
安永 4 年(1775)		-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
文化 3 年(1806)		-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-
文化 4 年(1807)		-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-
文化 5 年(1808)		-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-
文化 6 年(1809)		-	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-
文化 7 年(1810)		-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-
文化 8 年(1811)		-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-
文化 9 年(1812)		-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
文化 10 年(1813)		-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
文化 11 年(1814)		-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
文化 12 年(1815)		-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
文化 13 年(1816)		-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
文化 14 年(1817)		-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
文政 元年(1818)		-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-
文政 2 年(1819)		-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-
文政 3 年(1820)		-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-
文政 4 年(1821)		-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-
文政 5 年(1822)		-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-
文政 6 年(1823)		-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
文政 7 年(1824)		-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
文政 8 年(1825)		-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-
文政 9 年(1826)		-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-
文政 10 年(1827)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
文政 11 年(1828)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
文政 12 年(1829)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
天保 元年(1830)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
天保 2 年(1831)		-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-

年	職階	大元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上
		元	格	格	代	格	見	支	配	頭	頭	座
天保 3年(1832)					3							
天保 4年(1833)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
天保 5年(1834)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
天保 6年(1835)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-
天保 7年(1836)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	1
天保 8年(1837)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	1
天保 9年(1838)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	1
天保 10年(1839)		-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	1
弘化 4年(1847)		-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
嘉永 元年(1848)		-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
嘉永 2年(1849)		-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
嘉永 3年(1850)		-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
嘉永 4年(1851)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
嘉永 5年(1852)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
嘉永 6年(1853)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
安政 元年(1854)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
安政 2年(1855)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
安政 3年(1856)		-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
安政 4年(1857)		-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
安政 5年(1858)		-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-
安政 6年(1859)		-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-
万延 元年(1860)		-	-	1	-	-	-	1	1	-	1	-
文久 元年(1861)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
文久 2年(1862)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
文久 3年(1863)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
元治 元年(1864)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
慶応 元年(1865)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
慶応 2年(1866)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
慶応 3年(1867)		-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-
明治 元年(1868)		-	1	-	-	-	-	1	-	1	1	-

出所)「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本1090~本1099)。

注) 本表の数値は、各年の正月時点の職階ごとの人数を数えたものである。2月以降の付記、抹消は無視した。

第15表 江戸向店の名目役手代人数

年	職階	大元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上
		元	名	掛	名	同	同	支	同	同	同	同
		格	格	代	代	格	見	配	配	頭	頭	座
明和 8年(1771)		- 1	- 1	-	-	-	-	- 1	-	2	- 6	- 7 1 8 2
安永 元年(1772)		- 1	- 1	-	-	-	-	- 1	-	3	- 5	- 8 1 6 1
安永 2年(1773)		- 2	-	-	-	-	-	- 1	-	4	- 6	- 8 2 9 -
安永 3年(1774)		- 2	-	-	-	-	-	- 1	-	4	- 5	- 7 2 9 -
安永 4年(1775)		- 2	-	-	-	-	-	- 1	-	3	- 3	2 6 2 9 -
文化 3年(1806)		1	-	-	-	-	- 1	- 1	-	3	- 4	- 5 2 5 2
文化 4年(1807)		-	-	-	-	- 2	-	-	-	3	- 5	- 3 2 7 2
文化 5年(1808)		-	-	-	-	- 2	-	-	-	3	- 5	- 6 - 6 3
文化 6年(1809)		-	-	-	-	- 2	-	-	-	3	- 4	- 5 - 8 2
文化 7年(1810)		-	-	-	- 1	-	-	-	-	3	- 4	- 4 2 6 2
文化 8年(1811)		-	-	-	- 2	-	-	- 1	-	2	- 4	- 6 - 7 2
文化 9年(1812)		-	-	-	- 1	-	-	- 2	-	2	- 4	- 5 - 7 1
文化10年(1813)		-	-	-	- 1	-	- 1	- 1	-	2	- 3	1 4 1 9 -
文化11年(1814)		-	-	-	- 1	-	- 1	-	-	2	- 4	- 5 1 7 -
文化12年(1815)		-	-	-	- 1	-	- 2	-	-	3	- 4	- 5 1 8 -
文化13年(1816)		-	-	-	- 1	-	- 1	-	-	3	- 4	- 7 1 6 1
文化14年(1817)		-	-	- 1	-	-	- 1	-	-	3	- 4	- 6 1 8 -
文政 元年(1818)		-	-	- 1	-	- 1	-	-	-	3	- 4	- 7 1 7 -
文政 2年(1819)		-	-	- 1	-	- 1	-	-	-	3	- 4	- 7 - 7 1
文政 3年(1820)		-	-	- 1	-	- 1	-	- 1	-	2	- 4	- 8 - 6 1
文政 4年(1821)		-	-	- 1	-	- 1	-	- 1	-	3	- 4	- 7 - 8 1
文政 5年(1822)		-	-	- 1	-	- 1	-	- 1	-	3	- 4	- 6 - 9 -
文政 6年(1823)		-	-	- 1	-	- 1	-	- 1	-	3	- 4	- 6 - 9 -
文政 7年(1824)		- 1	-	-	- 1	-	- 2	-	-	3	- 4	- 6 -10 1
文政 8年(1825)		-	-	- 1	-	-	- 1 1	-	-	3	- 4	- 7 - 7 -
文政 9年(1826)		-	-	- 1	-	-	- 1 1	-	-	3	- 4	- 7 - 8 2
文政10年(1827)		-	-	- 1	-	- 1	- 1	-	-	3	- 5	- 5 1 9 -
文政11年(1828)		-	-	- 1	-	- 1	- 1	-	-	3	- 5	- 5 1 7 1
文政12年(1829)		-	-	- 1	-	- 1	- 1	-	-	3	- 5	- 6 - 6 2
天保 元年(1830)		-	-	- 1	-	- 1	- 1	-	-	3	- 5	- 6 - 8 1
天保 2年(1831)		-	-	- 1	- 1	-	- 1	-	-	3	- 4	- 6 1 7 2

年	職階	大元	加判名代	元方掛名代	勘定名代	名代	後見	通勤支配	支配	組頭	役頭	上座
		(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)	(格)
天保 3年(1832)				← 2 →				1 -	2 -	4 1 5 -	6 -	
天保 4年(1833)		-	- 1 -	-	- 1 -	-	-	- 1 -	2 -	4 1 5 -	6 -	
天保 5年(1834)		-	- 1 -	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	3 1 5 -	6 -	
天保 6年(1835)		-	- 1 -	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	4 - 5 -	7 -	
天保 7年(1836)		-	- 1 -	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	4 - 6 -	6 -	
天保 8年(1837)		-	- 1 -	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	4 1 5 -	6 -	
天保 9年(1838)		-	- 1 -	-	-	-	- 1 -	-	2 -	4 - 5 -	7 -	
天保10年(1839)		-	- 1 -	-	-	- 1 -	-	-	2 -	3 - 4 -	5 -	
弘化 4年(1847)		-	-	-	-	-	- 1 -	-	3 -	3 - 4 -	8 -	
嘉永元年(1848)		-	-	-	-	-	- 1 -	-	3 -	3 - 4 -	9 -	
嘉永 2年(1849)		-	- 1 -	-	-	-	-	- 1 -	2 -	4 - 4 -	8 -	
嘉永 3年(1850)		-	- 1 -	-	-	-	-	- 1 -	2 -	3 - 4 -	6 -	
嘉永 4年(1851)		-	-	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	3 4 -	6 -	
嘉永 5年(1852)		-	-	-	- 1 -	-	- 1 -	-	1 1 2 1 3 -	8 -		
嘉永 6年(1853)		-	-	-	- 1 -	-	- 1 -	-	2 -	3 1 4 -	8 -	
安政元年(1854)		-	-	- 1 -	-	-	- 1 -	-	2 -	3 - 5 -	6 1	
安政 2年(1855)		-	-	- 1 -	-	-	- 1 -	-	1 1 2 1 3 -	7 1		
安政 3年(1856)		-	-	-	-	-	-	- 1	1 -	1 1 1 3 2		
安政 4年(1857)		-	-	-	-	-	-	- 1	2 -	2 - 2 1 4 1		
安政 5年(1858)		-	-	-	-	-	-	-	2 1 1 1 1 1 2 2			
安政 6年(1859)		-	-	-	-	-	- 1 -	-	1 1 1 1 1 1 1 3			
万延元年(1860)		-	-	-	-	-	-	-	1 1 2 -	1 1 2 1		
文久元年(1861)		-	-	-	-	- 1 -	- 1 -	-	- 1 1 1 1 1 3 -			
文久 2年(1862)		-	-	-	-	- 1 -	- 1 -	-	1 -	1 1 2 - 3 1		
文久 3年(1863)		-	-	-	-	- 1 1 -	-	-	1 1 1 1 2 -	1 1		
元治元年(1864)		-	-	-	- 1 -	- 1 -	-	-	1 1 1 1 1 1 1 1			
慶応元年(1865)		-	-	-	-	- 1 -	-	-	2 -	2 - 1 1 2 2		
慶応 2年(1866)		-	- 1 -	-	-	-	- 1 -	-	2 -	1 1 - 2 3 1		
慶応 3年(1867)		-	- 1 -	-	-	- 1 -	- 1 -	-	1 -	3 - 2 - 3 2		
明治元年(1868)		-	-	-	- 1 -	- 1 -	-	-	1 -	1 1 1 1 3 -		

出所)「店々人数留」(三井文庫所蔵史料 本1091~本1099)。

注) 本表の数値は、各年の正月時点の職階ごとの人数を数えたものである。2月以降の付記、抹消は無視した。

第 16 表 江戸芝口店の名目役手代人数

年	職 階	大元	加判	元方	勘定	名	後	通勤	支	組	役	上
		元 格	名 代 格	方 掛 名 代 格	定 名 代 格	名 代 格	後 見 格	支 配 格	配 格	頭 格	頭 格	座 格
明和 8 年(1771)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-
安永 元年(1772)		-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
安永 2 年(1773)		-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
安永 3 年(1774)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
安永 4 年(1775)		-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
文化 3 年(1806)		-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
文化 4 年(1807)		-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
文化 5 年(1808)		-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-
文化 6 年(1809)		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
文化 7 年(1810)		-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-
文化 8 年(1811)		-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
文化 9 年(1812)		-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-
文化 10 年(1813)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
文化 11 年(1814)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
文化 12 年(1815)		-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
文化 13 年(1816)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
文化 14 年(1817)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
文政 元年(1818)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
文政 2 年(1819)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
文政 3 年(1820)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
文政 4 年(1821)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
文政 5 年(1822)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
文政 6 年(1823)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-
文政 7 年(1824)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
文政 8 年(1825)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
文政 9 年(1826)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
文政 10 年(1827)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
文政 11 年(1828)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
文政 12 年(1829)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
天保 元年(1830)		-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-
天保 2 年(1831)		-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-